

## 香川大学大学院における博士人材養成課程

研究科・専攻	概要
医学系研究科 医学専攻 ・ 4 年制 ・ 入学定員 30 人 収容定員 120 人 ・ 開設 平成 28 年 4 月（既設 3 専攻を改組）	医学系研究科機能構築医学専攻 分子情報制御医学専攻 社会環境病態医学専攻 ↓ 医学系研究科医学専攻
医学系研究科 看護学専攻博士後期課程 ・ 3 年制 ・ 入学定員 2 人 収容定員 6 人 ・ 開設 令和 4 年 4 月 修士課程から区分制博士課程へ変更	医学系研究科看護学専攻（修士課程） ↓ 医学系研究科看護学専攻（博士前期課程） 医学系研究科看護学専攻（博士後期課程）
工学研究科 安全システム建設工学専攻博士課程 信頼性情報システム工学専攻博士課程 機械システム工学専攻博士課程 材料創造工学専攻博士課程 ・ 3 年制 ・ 安全 入学定員 5 人 収容定員 15 人 信頼 入学定員 7 人 収容定員 21 人 知能 入学定員 5 人 収容定員 15 人 材料 入学定員 5 人 収容定員 15 人 ・ 開設 令和 4 年 4 月 博士後期課程から博士課程へ名称変更	各専攻「博士後期課程」 ↓ 各専攻「博士課程」 令和 4 年 4 月創発科学研究科（修士課程） 開設に伴う工学研究科博士前期課程の廃止のため、名称を変更

## 香川大学大学院工学研究科（博士課程（後期）（区分制：3年制））入試実施状況調査

## [対象]

工学研究科博士後期課程/博士課程（後期）4専攻の入試実施状況

## [方法]

平成30年度入学者から5年間の出願者、受験者、合格者、入学者の実数を集計する。

## [結果]

過去5年間の一般学生、有職社会人学生、外国人留学生の入学者の平均値を下記に示す。

試験区分	数値
一般学生	4.6
有職社会人学生	4.6
外国人留学生	4.2

学生の構成では、一般（学部・修士を経たストレートの学生）、有職社会人、外国人留学生が見られる。各年度の受験生をみると、入学者とほぼ同数である。入学定員を上回っていない傾向が見られ、定員未充足状況が継続している。

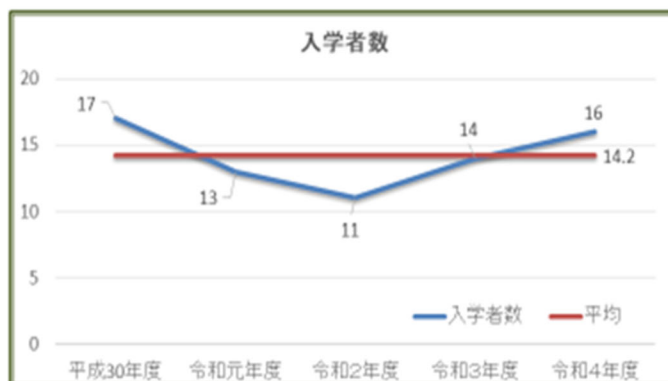
外国人留学生は、年度により多寡の差が大きい。一般学生、有職社会人学生は、一定幅で推移している。有職社会人は、本学の教員と研究等で関係を有する企業・団体からの派遣や個人で自ら入学したものを主とする。いずれの区分にも低調ながら入学者が確認できる。

工学研究科博士後期 受験・入学状況（10月入学含）						
選抜種類・・・一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜						
H30						
選 抜	専 攻	募集人員	出願者	受験者	合格者	入学者
合 計	安全システム建設工学専攻	若干人	5	5	5	5
	信頼性情報システム工学専攻		0	0	0	0
	知能機械システム工学専攻		10	10	9	8
	材料創造工学専攻		4	4	4	4
	合 計	22	19	19	18	17
H31						
選 抜	専 攻	募集人員	出願者	受験者	合格者	入学者
合 計	安全システム建設工学専攻	若干人	3	3	3	3
	信頼性情報システム工学専攻		3	3	3	3
	知能機械システム工学専攻		6	6	6	6
	材料創造工学専攻		1	1	1	1
	合 計	22	13	13	13	13
2020						
選 抜	専 攻	募集人員	出願者	受験者	合格者	入学者
合 計	安全システム建設工学専攻	若干人	3	3	3	3
	信頼性情報システム工学専攻		3	3	3	3
	知能機械システム工学専攻		2	2	2	2
	材料創造工学専攻		3	3	3	3
	合 計	22	11	11	11	11
2021						
選 抜	専 攻	募集人員	出願者	受験者	合格者	入学者
合 計	安全システム建設工学専攻	若干人	3	3	3	3
	信頼性情報システム工学専攻		2	1	1	1
	知能機械システム工学専攻		7	7	7	7
	材料創造工学専攻		3	3	3	3
	合 計	22	15	14	14	14
2022						
選 抜	専 攻	募集人員	出願者	受験者	合格者	入学者
合 計	安全システム建設工学専攻	若干人	4	4	4	4
	信頼性情報システム工学専攻		2	2	2	2
	知能機械システム工学専攻		3	3	3	3
	材料創造工学専攻		5	5	5	5
	合 計	22	14	14	14	14

## 工学研究科博士後期課程における過去5年間の入学者

【定員22名】

年度	入学者数(名)
平成30年度	17
令和元年度	13
令和2年度	11
令和3年度	14
令和4年度	16
平均	14.2



(参考)各年度の選抜区分別内訳

選抜区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
一般選抜	9	4	5	2	5
社会人特別選抜	6	3	6	4	4
外国人留学生特別選抜	2	6	0	8	5
合計	17	13	11	14	14

## 国立大学法人香川大学 イノベーションデザイン研究所の設置について

### 【背景】

今日、大学の重要なミッションとして、産学官連携の一層の推進が求められているところであるが、これには、①企業に対する提案力（研究内容の先進性、研究成果の実用化のシナリオ等）、②部局横断的なチーム編成など連携の柔軟性、③財務管理・知財管理等に関するマネジメント体制等の重要性が指摘されている（注）。本学においては、平成30年4月に「産学官連携統括本部」を設け、対外的な受入窓口を一括化し、様々な要請に一元的に対応する体制を整えたが、「組織」対「組織」の産学連携をさらに強化し、十分な成果を生み出すためには、学長主導による全学的な共同研究の実施体制を構築する必要がある。

### 【目的】

本研究所の設置は、新たに設ける「特別共同研究」を組織対組織で実施し、分野横断的な新たな研究テーマの創出・提案及び知財管理等に関するマネジメント等を一体的に行うことにより、研究の基盤を一層強化し、外部資金の導入を図ることで、本学の産学連携の推進及び財政基盤の強化につなげることを目的とする。

### 【概要】

#### 1. 組織体制

研究所長及び副研究所長を置き、その下にマネジメント部門及びプロジェクト部門を設置する。マネジメント部門には、統括マネージャー、プロジェクトマネージャー、プロジェクトアドバイザー、知財マネージャー、その他必要な職員を置く。プロジェクト部門には、プロジェクトリーダー、参画研究者、その他必要な職員を置く。

#### 2. 業務

新たに規定する「特別共同研究」の推進に向け、分野横断的な新たな研究プロジェクトの創出・提案及び運用を行う。マネジメント部門においては、プロジェクトの効率的なマネジメント、適正な研究チームの編成、新たな研究価値のプロモーションを行う。プロジェクト部門においては、「特別共同研究」の実施を行う。

### 【設置により期待される効果】

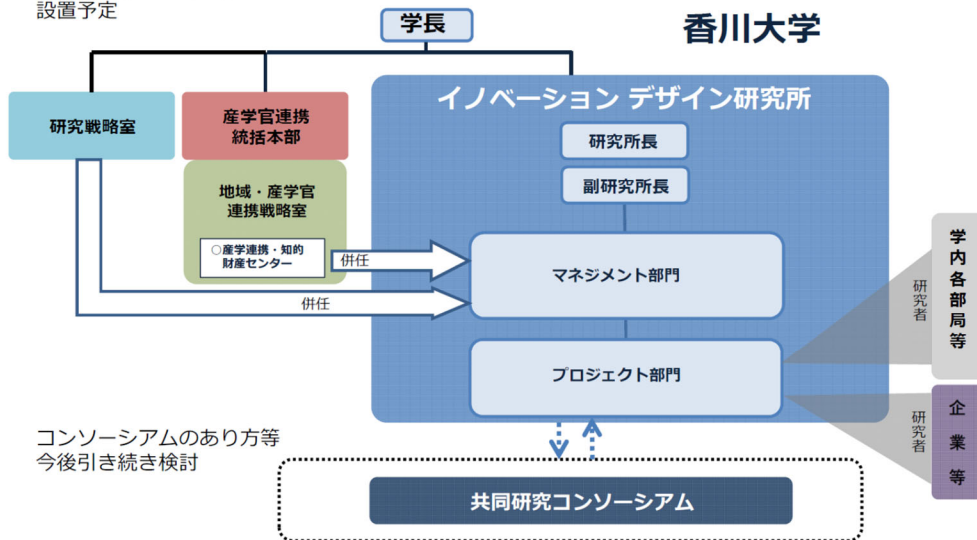
本学における産学連携・官学連携を基盤とする研究をより一層推進・加速できる。また、新たな研究テーマを創出し、適正な研究チームを編成することにより、企業等との大型の研究プロジェクトを実施することが可能となり、外部資金の流入拡大につながる。さらに、研究所の業務を通じて、研究マネジメント人材の育成を図ることができる。

（注）イノベーション促進産学官対話会議「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン」（平成28年11月30日）参照

(案)

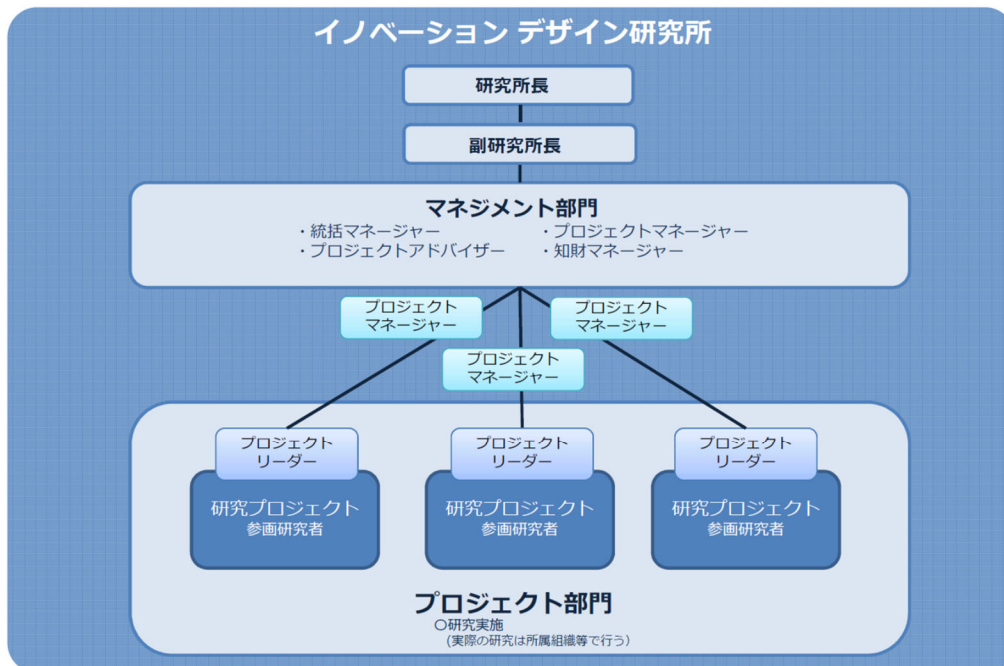
## ① 研究所の全学における位置付け

平成30年10月1日  
設置予定



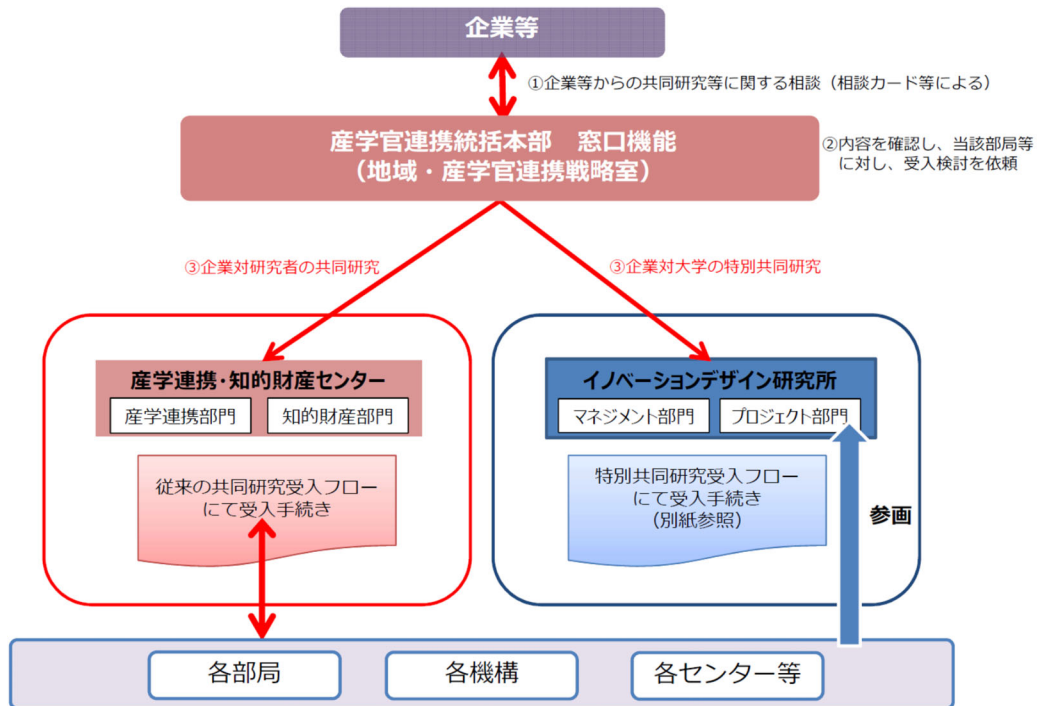
KAGAWA UNIVERSITY

## ② 研究所の組織体制



KAGAWA UNIVERSITY

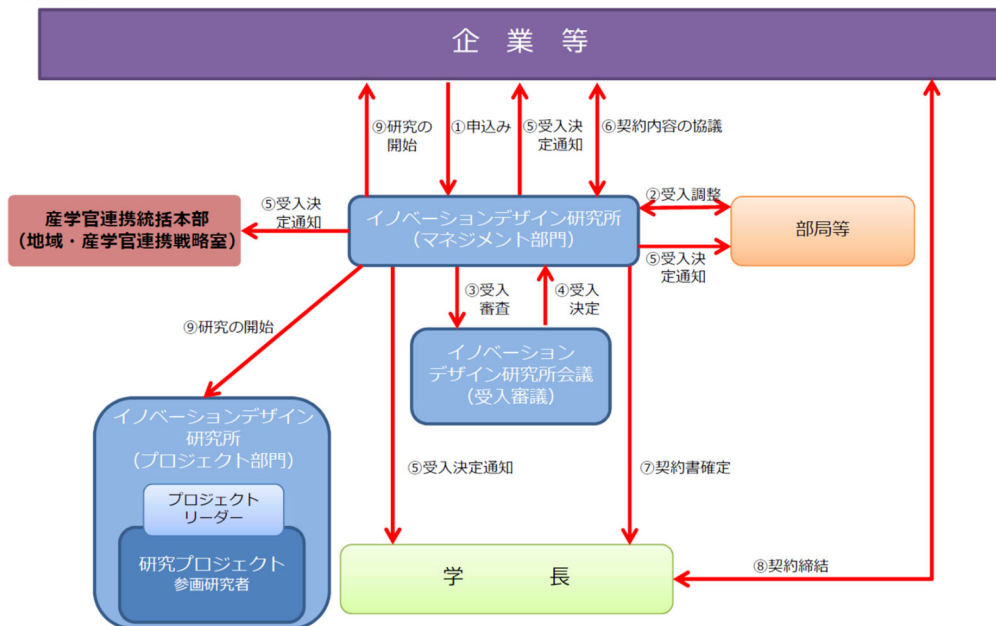
### ③ 外部機関からの相談受付フロー



KAGAWA UNIVERSITY

### ④ 特別共同研究 定義と受入れフロー

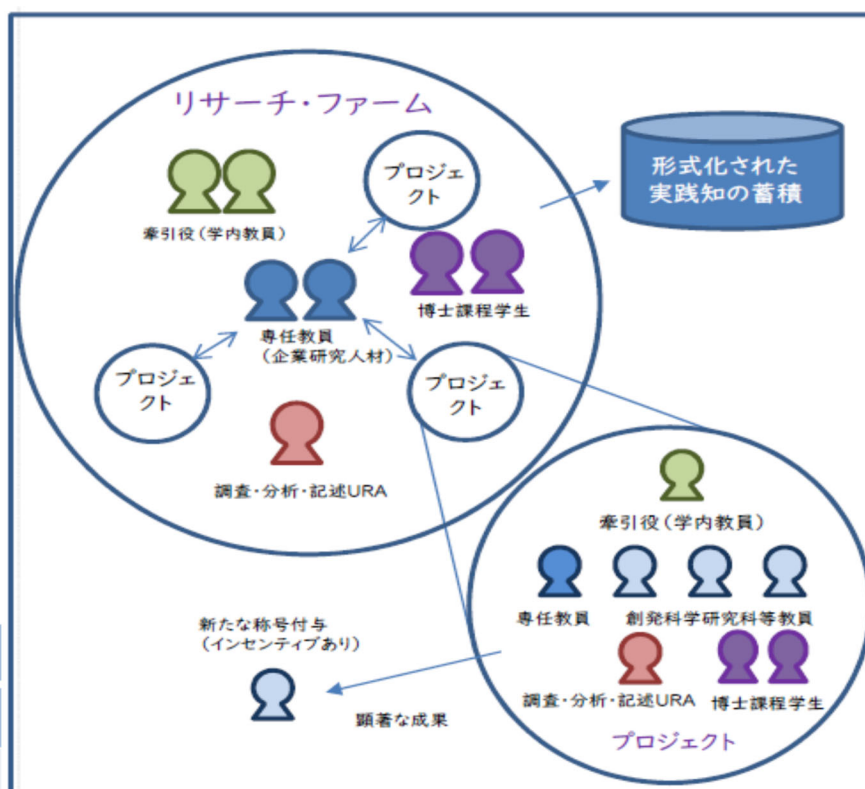
特別共同研究とは 原則として、複数部局による分野横断的な大型研究プロジェクトであり、イノベーションデザイン研究所においてマネジメントする研究



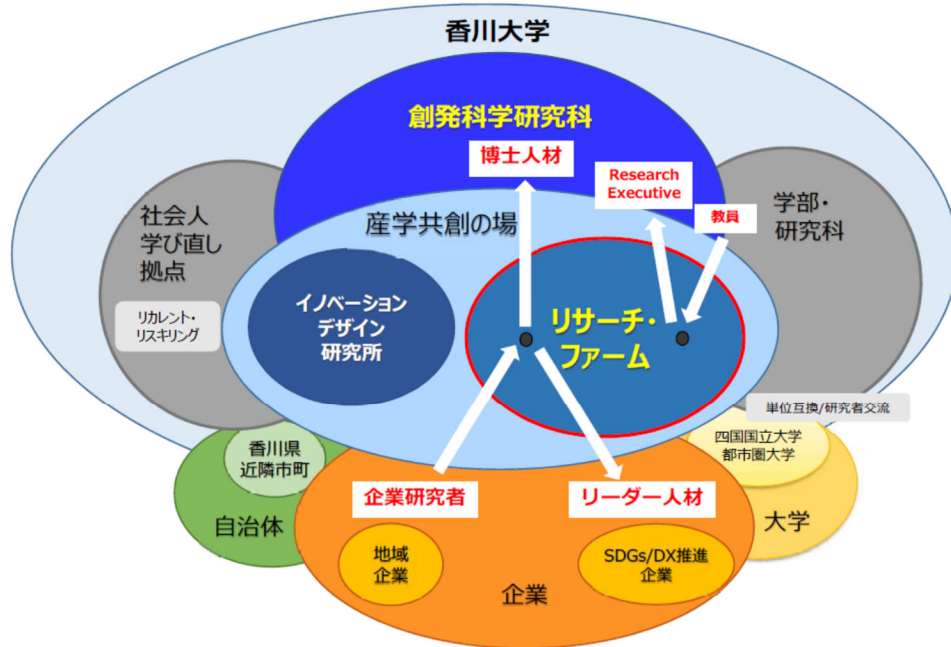
## 産学共創リサーチ・ファームについて

リサーチ・ファームにおいては、企業の制約から離れた企業人と本学の研究者など多様な人材で構成されるプロジェクトチームを作り、社会的課題やデジタル化の課題など、喫緊の課題に取り組み、新たな選択肢の創出による解決策の探求を行うとともに、それらを昇華させ実践的な知として確立することを目指している。本組織におけるこれらの取組は、大学院における分野横断的共創研究のあり方のみならず、地方国立大学における学部や社会人の教育の向かうべき方向性を指し示す可能性が高い。

リサーチ・ファームでは、具体的な社会的課題やデジタル化の課題に対して、常時複数の時限的なプロジェクトを進行させる。プロジェクトには、企業からの研究人材（クロスアポイントメント採用を含む）による専任教員と、創発科学研究科に所属する教員を含め、複数の分野の教員が参加する。また、プロジェクトに必要な情報の収集や、得られた実践知を体系的に記録する研究者（URA）もそれぞれのチームに参加する。プロジェクトは、デジタルONE戦略に基づき空間的障壁（分散キャンパスや企業と大学間の距離的障壁）を乗り越え、バーチャル空間の中で実施される。







## 企業対象ヒアリング調査

実施日 : 令和4年10月～令和5年1月

目的 : 各企業の人材需要動向の把握

博士課程(後期)修了者の出口開拓、所属員の博士課程(後期)への学生派遣要請

対象 : 本学への学生(博士)派遣実績企業及び地域で一定規模を有する企業(支社含)

## 対象企業一覧

区分	業種等	数値
工学研究科博士課程(後期相当)派遣実績あり	製造業	1
	設計コンサルタント	5
	公的機関(調査研究)	1
	デジタルサービス開発	1
	建設業、コンクリート製品製造メーカー	1
	合計	9
他大学大学院博士課程進学実績あり ※研究等で本学とつながりはあるもの	自動車部品、音響機器製造	1
	設計コンサルタント	1
	建設業、不動産業	2
	合計	4
新規開拓	資材販売・システム開発・設計コンサルタント	2
	設計コンサルタント	2
	金属製造業	1
	環境分析・水産資源増殖	1
	金融業	1
	保険業	1
	通信業	1
	デジタルサービス開発	1
	鉄鋼業・鉄鋼商社	1
	研究開発	1
	研究機関	1
合計	11	
総計		26

方法 : 聴取法 (訪問、リモート含む)  
 結果 : 回答数 24 社・団体 (N=24 とする)  
 別紙のとおり

質問項目 (問 詳細)

	項目
Q1	博士課程 (後期) への職員派遣実績の有無について
Q2	職員の博士課程 (後期) への職員派遣の継続意思の有無
Q3	研究費支援の意思
Q4	必要とする人材 (博士) イメージ
Q5	創発科学研究科構想への意見

[結果]

本学 D 入学実績あり		業種等	継続意思	希望分野
1	A 興業 (株)	製造業	○	工学、危機管理学
2	(財) B 研究所	設計コンサルタント	○	工学、危機管理学
3	C 技術コンサルタント	設計コンサルタント	○	工学、危機管理学
4	D (株)	設計コンサルタント	○	文系 (法学)
5	(株) E 研究所	設計コンサルタント	○	工学、危機管理学
6	H (株)	建設業、コンクリート製品製造メーカー	○	工学
7	I 試験場	公的機関 (調査研究)	○	工学、学術
8	(株) N	設計コンサルタント	○	工学、危機管理学
9	(株) P	デジタルサービス開発	○	工学、学術

他大学院 D 進学あり		業種等	関心有無	希望分野
1	T (株)	自動車部品、音響機器製造	○	工学、農学
2	(株) U	設計コンサルタント	○	工学、危機管理学
3	V 建設 (株)	建設業	○	工学、危機管理学
4	W 開発 (株)	建設業、不動産業	○	工学

本学実績なし		業種等	関心有無	希望分野
1	F 商事	資材販売、システム開発 設計コンサルタント		文系関心、修士から
2	G (株)	金属製造業	○	工学

3	(株) J 建築事務所	設計コンサルタント	○	工学 ※学位のある職員増を計画
4	K (株)	環境分析、水産資源増殖	○	工学、危機管理学
5	(株) L 銀行	金融業		データサイエンス
6	O 保険	保険業	○	学術
7	(株) Q	通信業	○	地域観光の活性化 スポーツ振興
8	合同会社 X	設計コンサルタント	○	工学、危機管理学
9	(株) Y	鉄鋼業、鉄鋼商社	○	工学、他
10	M 研究開発法人	研究開発		採用意向あり
11	X 研究開発法人	研究機関		採用意向あり
12	P (株)	設計コンサルタント	○	工学
13	M デザイン	デジタルサービス開発	○	工学

#### 聴取結果詳細

企業名	業種	内容
A 興業	製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>工学研究科で1名の博士後期課程修了者</li> <li>これまで香川大学、愛媛大学、徳島大学の大学院博士後期課程に職員を入学させており、創発科学研究科博士後期課程ができれば、博士（工学）または博士（危機管理学）で学位を取らせたい。営業のできる技術者、技術が分かる営業者を育てたい。</li> <li>研究費支援可能。</li> </ul>
(財) B 研究所	設計コンサルタント	<ul style="list-style-type: none"> <li>工学研究科で1名の博士後期課程修了者、2名の在学者</li> <li>これまで工学研究科に職員を入学させており、創発科学研究科博士後期課程ができれば、博士（工学）で学位を取らせたい。</li> <li>研究費支援可能</li> </ul>
C 技術コンサルタント	設計コンサルタン	<ul style="list-style-type: none"> <li>工学研究科で3名の博士後期課程修了者</li> <li>これまで工学研究科に職員を入学させており創発科学研究科博士後期課程ができれば、博士（工学）及び（危機管理学）で学位を取らせたい。</li> </ul>
D (株)	設計コンサルタント	<ul style="list-style-type: none"> <li>工学研究科で2名の博士後期課程修了者。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、法学部出身者で危機管理の業務を担当している者がおり、創発科学研究科博士後期課程ができれば、博士（危機管理学）で学位を取らせたい。</li> <li>・費用等は全て会社で負担する。</li> </ul>
(株)E 研究所	設計コンサルタント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工学研究科で2名の博士後期課程修了者。</li> <li>・これまで工学研究科に職員を入学させており、創発科学研究科博士後期課程ができれば、博士（工学）及び博士（危機管理）で学位を取らせたい。</li> <li>・今後、危機管理学は必要である。</li> </ul>
F 商事	資材販売、システム開発、設計 コンサルタント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創発科学研究科博士後期課程で文系でも学位が取れるのであれば、博士（学術）で学位を取らせたい。</li> <li>・今後、危機管理学は必要であると思う。</li> <li>・まずは修士課程から検討したい。</li> </ul>
G（株）	金属製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは工学研究科に1名を博士後期課程へ入学させ実績を作りたい（R4.10入学）。</li> <li>・創発科学研究科博士後期課程ができれば、博士（工学）で学位を取らせたい。</li> <li>・製品開発関係の技術者を育てたい。</li> <li>・研究費の支援は可能。</li> </ul>
H（株）	建設業、コンクリート製品製造 メーカー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工学研究科に1名の博士後期課程在学者。</li> <li>・創発科学研究科博士後期課程ができれば、博士（工学）で学位を取らせたい。</li> <li>・環境調和型消波ブロック開発に携わる技術者を育てたい。</li> <li>・研究費の支援は可能。</li> </ul>
I 試験場	公的機関（調査研究）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工学研究科で2名の博士後期課程修了者。</li> <li>・これまで工学研究科に職員を入学させており、創発科学研究科博士後期課程ができれば、博士（工学）で学位を取らせたい。博士（学術）にも興味がある。</li> </ul>
(株)J 建築事務所	設計コンサルタント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは工学研究科に1名を博士後期課程へ入学させ実績を作りたい。</li> <li>・創発科学研究科博士後期課程ができれば、博士</li> </ul>

		<p>(工学) で学位を取らせたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学位を有する社員を増やしたい。</li> <li>・研究費の支援は可能。</li> </ul>
K (株)	環境分析、水産資源増殖	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博士課程ができるのであれば役員に学位(学術、危機管理学)を取らせたい。</li> <li>・研究費の支援は可能。</li> </ul>
(株) L 銀行	金融	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社内の DX 化を進めている。データサイエンティストの育成を目指して外部から講師を招いて社員教育を行っている。地元の香川大学でそのような人材育成ができる大学院があれば、社員を入学させたい。</li> </ul>
M 研究開発法人	研究機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博士号取得者の採用を増やしたいので、創発科学研究科博士後期課程ができれば、修了者の出口として検討してほしい</li> <li>・インターンシップ先としても積極的に利用してほしい</li> </ul>
(株) N	設計コンサルタント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工学研究科で 1 名の博士後期課程修了者。</li> <li>・創発科学研究科博士後期課程ができれば、博士(学術)もしくは博士(危機管理学)で学位を取らせたい</li> <li>・研究費の支援は可能。</li> </ul>
O 保険	保険業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香川大学イノベーションデザイン研究所との連携により、社員に博士(学術)を取らせたい。</li> <li>・希望者が 2 名。</li> <li>・研究費の支援は可能。</li> </ul>
(株) P	デジタルサービス開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、工学研究科に 1 名の博士後期課程在学者</li> <li>・香川大学イノベーションデザイン研究所との連携によるデジタルサービス開発、デジタルマーケティングに関する共同研究を行っており、社員に博士(工学)もしくは博士(学術)を取らせたい。</li> <li>・研究費の支援は可能。</li> </ul>
(株) Q	通信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香川大学イノベーションデザイン研究所との連携により、社員に博士(学術)を取らせたい。</li> <li>・地域観光の活性化、スポーツ振興に資する研究テーマを望む。</li> </ul>

R調査設計（株）	設計コンサルタント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香川大学イノベーションデザイン研究所との連携により、社員に博士（危機管理学）を取らせたい。</li> <li>・地域防災に資する研究テーマを望む。</li> </ul>
香川県立 S 高等学校	教育機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博士（工学）を取らせたい。</li> <li>・地域の絶滅危惧種の保護・育成に資する研究テーマを望む。</li> </ul>
P（株）	設計コンサルタント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博士（工学）を取らせたい。</li> </ul>
Mデザイン	デジタルサービス開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博士（工学）を取らせたい</li> </ul>

補足資料：地域企業等からの相談案件

NO	概要
1	農林水産業の第6次産業化（新規養殖技術、農薬の斜面噴霧技術等）
2	農林水産業と活力のある農漁村づくりを担う人材・地域リーダー育成
3	地域資源販路拡大（カバン、仏壇仏具、手袋、醤油、豊島レモン、ドライフルーツ、樹 勢回復資材、オリーブサーモン、ハマチ、いりこ、エッセンシャルオイル等）
4	ポストコロナに向けたポストコロナに向けた企業経営戦略（感染症・災害対応製品の開発）
5	新規形態安定型加工技術を用いたアパレル製品の研究開発
6	ドリップコーヒーバック製袋加工の生産能力および生産性の向上
7	バイオマス発電等の廃棄物を原材料として高付加価値再生処理を施した特殊再生砂の製造
8	コンクリート製品の生産ラインのDX化による管理システムの構築
9	大梁製造ラインの構築による鉄鋼技術の高度化
10	細分化された産業廃棄物を再利用するサーキュラーエコノミー型事業の構築
11	自社保有の山からの花崗土の産出による新事業への参入
12	義歯床ミリング加工による高強度、高適合精度を兼ね備えたCAD/CAMデンチャー製法
13	廃材の再利用化の実践による生産性および収益性の向上
14	氷結晶を小さく抑えることによる冷凍食品の品質向上と冷凍能力の高い凍結設備の開発

追加調査：香川県庁聴取調査

対象：香川県庁各部局

方法：聴取法

実施期間：令和4年10月～11月

部局	結果
<p><b>政策部</b> デジタル戦略総室 文化芸術局瀬戸内国際芸術祭推進課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○デジタル化による地域ニーズ・課題の早期発見と対策</li> <li>○地域資源の活用と地域活性化</li> <li>○生活の利便性向上</li> <li>○多様なサービスの提供と人々の交流推進</li> <li>○行政事務の効率化</li> <li>○瀬戸内国際芸術祭の継続</li> <li>○新規大型イベントの誘致 等</li> </ul>
<p><b>交流推進部</b> 交流推進課 観光振興課 県産品振興課 栗林公園管理事務所</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○沿岸域における多目的空間利用</li> <li>○県産品のブランド化</li> <li>○観光資源の価値向上と集客手法</li> <li>○淡水赤潮問題</li> <li>○外来種の駆除</li> <li>○AI・IoT 技術を駆使した植物・水質管理技術 等</li> </ul>
<p><b>土木部</b> 道路課 交通政策課 港湾課 河川砂防課 建築指導課 下水道課 技術企画課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○交通需要予測</li> <li>○生物共生型護岸の高機能化</li> <li>○建築物の老朽化診断</li> <li>○歴史的建築物の保全と利用</li> <li>○航路浚渫と浚渫土の再利用・再資源化</li> <li>○下水汚泥処理と再利用</li> <li>○高潮・津波対策と強靱化</li> <li>○環境配慮型防災施設</li> <li>○マイクロプラスチックの回収 等</li> </ul>
<p><b>農政水産部</b> 農政課 農村整備課 畜産課 土地改良課 水産課 水産試験場</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スマート農業</li> <li>○畜産系排水処理技術</li> <li>○水利用</li> <li>○AI・IoT 技術を駆使した新養殖システム</li> <li>○新規藻場・干潟造成技術</li> <li>○有用水産資源生産力技術</li> <li>○漁場造成適地の選定</li> <li>○海底窪地の環境改善</li> <li>○環境にやさしい浮体施設の開発</li> <li>○漁業調整、等</li> </ul>
<p><b>環境森林部</b> 環境管理課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○里海づくり</li> <li>○大学との連携強化</li> </ul>





**企業等対象アンケート調査**

**【アンケート調査】**

- 実施対象：本学学生の採用実績のある企業等
- 実施日：令和5年1月～2月
- 目的：本構想に対する魅力度の調査  
本博士課程（後期）への職員派遣（入学）意向の確認  
本博士課程（後期）修了者の採用意向の確認
- 対象：858社・機関
- 方法：WEBアンケート(Forms)
- 用紙：別紙のとおり
- 説明資料：別紙のとおり
- 結果：回答数112（N=112とする）  
別紙のとおり

## 結果1 回答数

回答した企業等を所在地別に表1に示す。

表1

所在地	度数
関東	11
近畿	6
九州	1
四国	56
中国	32
中部	6
合計	112

N=112

回答のあった企業・機関の業種を表2に示す。業種の選択のあたっては、複数回答可としているため、回答のままを表2に示す。

表2

業種（企業自らの分類による）	度数
医療、福祉	1
運輸業、郵便業	1
運輸業、郵便業・卸売業、小売業・生活関連サービス業 娯楽業・サービス業（他に分類されないもの）	1
卸売業、小売業	13
学術研究、専門・技術サービス業	8
漁業・卸売業、小売業・製造業・学術研究、専門・技術サービス業	1
教育、学習支援業	6
教育、学習支援業、学術研究、専門・技術サービス業	3
金融業、保険業、	9
建設業	9
建設業・サービス業（他に分類されないもの）	1
公務（他に分類されるものを除く）	17
宿泊業、飲食サービス業	1
情報通信業	5
製造業	18

製造業、その他	1
製造業、医療、福祉	1
製造業・運輸業、郵便業	1
製造業・卸売業、小売業	1
電気、ガス、熱供給、水道業	2
電気、ガス、熱供給、水道業、建設業	1
電気、ガス、熱供給、水道業、情報通信業、卸売業、小売業、不動産業、物品賃貸業・宿泊業、飲食サービス業	1
複合サービス業	2
合計	112

比較的多様な業種に分類される企業等からの回答が確認できる。

## 結果2.採用動向調査結果

つづいて、「どのような分野の卒業・修了者を採用したいか」を尋ねた。結果を表3に示す。

表3

分野	度数
医学分野、歯学分野、薬学分野、保健学分野、総合科学分野	1
工学分野	16
工学分野、医学分野、農学分野	1
工学分野、人文・社会・人間科学分野	2
工学分野、人文・社会・人間科学分野、総合科学分野、理学分野	1
工学分野、人文・社会・人間科学分野、理学分野	1
工学分野、総合科学分野	1
工学分野、総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、心理学分野、理学分野	1
工学分野、農学分野	1
工学分野、農学分野、医学分野、薬学分野、保健学分野	1
工学分野、薬学分野、総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、心理学分野、理学分野、保健学分野	1
工学分野、理学分野	8
工学分野、理学分野、人文・社会・人間科学分野	1
心理学分野、人文・社会・人間科学分野、総合科学分野	1
人文・社会・人間科学分野	3
人文・社会・人間科学分野、工学分野	4

人文・社会・人間科学分野、工学分野、理学分野、総合科学分野、農学分野	1
人文・社会・人間科学分野、心理学分野	3
人文・社会・人間科学分野、心理学分野、理学分野、工学分野	1
人文・社会・人間科学分野、総合科学分野、工学分野、心理学分野	1
人文・社会・人間科学分野、総合科学分野、心理学分野、理学分野、工学分野、農学分野、食物学分野、栄養学分野	1
人文・社会・人間科学分野、理学分野、農学分野、心理学分野、栄養学分野、保健学分野	1
総合科学分野	2
総合科学分野、工学分野	1
総合科学分野、工学分野、保健学分野	1
総合科学分野、工学分野、薬学分野	1
総合科学分野、工学分野、理学分野、農学分野	1
総合科学分野、工学分野、理学分野、農学分野、食物学分野、栄養学分野	1
総合科学分野、心理学分野、人文・社会・人間科学分野	1
総合科学分野、人文・社会・人間科学分野	3
総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、工学分野	2
総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、工学分野、保健学分野	1
総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、心理学分野	3
総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、心理学分野、工学分野、保健学分野	1
総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、心理学分野、保健学分野	1
総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、心理学分野、理学分野、工学分野	1
総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、心理学分野、理学分野、工学分野、医学分野、薬学分野、保健学分野	1
総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、心理学分野、理学分野、工学分野、農学分野	1
総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、心理学分野、理学分野、工学分野、農学分野、食物学分野、栄養学分野	3
総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、心理学分野、理学分野、工学分野、農学分野、食物学分野、栄養学分野、医学分野、歯学分野、薬学分野、保健学分野	9
総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、心理学分野、理学分野、工学分野、農学分野、食物学分野、栄養学分野、歯学分野、薬学分野、医学分野、保健学分野	1
総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、心理学分野、理学分野、工学分野、農学分野、食物学分野、栄養学分野、保健学分野	3
総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、心理学分野、理学分野、農学分野、工学分野、食物学分野、栄養学分野、医学分野、歯学分野、薬学分野、保健学分野	1

総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、保健学分野、栄養学分野、食物学分野、農学分野、工学分野、理学分野、心理学分野	1
総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、保健学分野、心理学分野	1
総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、理学分野、工学分野、食物学分野、栄養学分野	1
総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、理学分野、工学分野、食物学分野、農学分野	1
総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、理学分野、工学分野、農学分野、食物学分野、栄養学分野	1
総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、理学分野、工学分野、農学分野、食物学分野、薬学分野、保健学分野	1
総合科学分野、理学分野、工学分野、薬学分野	1
総合科学分野、理学分野、農学分野、食物学分野、栄養学分野、医学分野、薬学分野	1
農学分野	1
農学分野、心理学分野、工学分野	1
保健学分野	1
理学分野、工学分野	6
理学分野、工学分野、人文・社会・人間科学分野、農学分野、食物学分野、栄養学分野、保健学分野	1
理学分野、人文・社会・人間科学分野	1
理学分野、総合科学分野、工学分野	1
理学分野、農学分野、総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、心理学分野、工学分野	1
合計	112

企業が求める分野を身に着けた人材の採用にあたり、学位（「修士」と「博士」）の区分を企業等が意識しているかを尋ねた。

表4

事項	度数
意識していない	91
意識している	21
合計	112

2割近くの企業等は、「博士」と明確に意識しながら採用活動を行っていることがわかる。「意識している」と回答した企業等の詳細を下表に示す。地域別、業種別に、採用したい分野を併せて表5に示す。

表5

地域	業種	分野
関東	サービス業(他に分類されないもの)	総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、心理学分野、理学分野、工学分野、農学分野、食物学分野、栄養学分野、保健学分野
	建設業	人文・社会・人間科学分野、工学分野
	建設業	工学分野、人文・社会・人間科学分野
	学術研究、専門・技術サービス業	理学分野、工学分野
近畿	学術研究、専門・技術サービス業、	理学分野、工学分野
四国	製造業	理学分野、工学分野
	製造業	工学分野、理学分野
	製造業	工学分野、総合科学分野
	製造業	総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、理学分野、工学分野、食物学分野、農学分野
	公務(他に分類されるものを除く)	保健学分野
	製造業	総合科学分野、工学分野、薬学分野
	製造業・医療、福祉	工学分野、農学分野、医学分野、薬学分野、保健学分野
	教育、学習支援業	工学分野
	教育、学習支援業	人文・社会・人間科学分野、心理学分野、理学分野、工学分野
	教育、学習支援業	工学分野、理学分野
	教育、学習支援業・学術研究、専門・技術サービス業	工学分野、人文・社会・人間科学分野、理学分野
	教育、学習支援業・学術研究、専門・技術サービス業	工学分野、医学分野、農学分野
	教育、学習支援業	工学分野
	教育、学習支援業	工学分野
	教育、学習支援業・学術研究、専門・技術サービス業	工学分野
	電気、ガス、熱供給、水道業・情報通信業・卸売業、小売業、不動産業、物品賃貸業・宿泊業、飲食サービス業	総合科学分野、工学分野、理学分野、農学分野、食物学分野、栄養学分野

四国地域の企業等であっても、学位の区分を意識して採用しているが確認できる。また、求める分野は多岐にわたる可能性が高いことが確認できる。

次に、学位の区分を意識した上で、「博士」に何を求めているのか、意識していることを尋ねた。

表6

事項
研究内容
研究内容、身につけたツール、取得資格
研究力、研究フェーズにおけるフローや進め方、また考え方等
本職場にて教員として採用するためには博士の学位が必要です。
博士の学位を持っていること
高等教育機関としては博士の学位は教員の条件であるから
採用条件に博士が含まれている
専門技術・研究は博士課程がすぐれているが、さらに前期課程や学部卒の技術者をマネジメントできる人材を考えております。
専門分野を本当に活かせるのか
担当業務、キャリアプラン等
博士は、活用できる業務範囲が狭いので、研究内容と弊社の事業内容との親和性を強く求めるので採用しにくい
博士後期課程修了生の場合、研究されている内容と、事業領域や企業の方向性が合致していることが、採用の前提になります。

「博士」を採用の前提（採用条件）としている企業も確認できる。また、被採用者の研究内容と採用側の事業との合致が強く意識されていることが確認できる。博士人材の採用にあたっては、企業等と人材との親和性が求められることにつながり採用しにくさを述べる企業等もみられる。さらに、博士の学生の者には、修士や学士の技術者を管理できる能力を有する意見もみられる。

これらの状況にある企業等が、今後、博士人材の採用がどのように変化していくか、企業等有する見通しを尋ねた。結果を表7に示す。

表7

事項	度数
大きく高まる	6
ある程度高まる	18
わからない	19



減る	1
現在と変わらない	68
合計	112

現在と変わらないと回答した企業が 6 割見られる。しかし、2 割強の企業は、「高まる」と回答していることが確認できる。「大きく高まる」、「ある程度高まる」と回答した企業の業種、所在地を表 8 に示す。

表 8

地域	業種	採用分野
中部	学術研究・専門・技術サービス業	総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、心理学分野、理学分野、工学分野、農学分野、食物学分野、栄養学分野、
	製造業	工学分野、理学分野、
中国	情報通信業	総合科学分野・人文・社会・人間科学分野・心理学分野・理学分野・工学分野・農学分野・食物学分野・栄養学分野・医学分野・歯学分野・薬学分野・保健学分野
	製造業	工学分野
四国	製造業	総合科学分野、工学分野、薬学分野、
	電気、ガス、熱供給、水道業、情報通信業、卸売業、小売業、不動産業、物品賃貸業、宿泊業、飲食サービス業、	総合科学分野、工学分野、理学分野、農学分野、食物学分野、栄養学分野、
	製造業、	人文・社会・人間科学分野、工学分野、理学分野、総合科学分野、農学分野、
	宿泊業、飲食サービス業、	総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、心理学分野、保健学分野、
	公務(他に分類されるものを除く)、	総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、心理学分野、理学分野、工学分野、農学分野、食物学分野、栄養学分野、医学分野、歯学分野、薬学分野、保健学分野、
	建設業、	工学分野、
	金融業、保険業、	総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、心理学分野、
	教育、学習支援業、	工学分野、

	教育、学習支援業、	人文・社会・人間科学分野、心理学分野、理学分野、工学分野、
	教育、学習支援業、	工学分野、
	教育、学習支援業、	工学分野、
	教育、学習支援業、	工学分野、理学分野、人文・社会・人間科学分野、
	卸売業、小売業、	総合科学分野、理学分野、工学分野、薬学分野、
	卸売業、小売業、	総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、理学分野、工学分野、農学分野、食物学分野、栄養学分野、
近畿	製造業、	工学分野、
	学術研究、専門・技術サービス業、	理学分野、工学分野、
関東	電気、ガス、熱供給、水道業、建設業、	総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、心理学分野、理学分野、工学分野、農学分野、食物学分野、栄養学分野、歯学分野、薬学分野、医学分野、保健学分野、
	建設業、	工学分野、人文・社会・人間科学分野、
	製造業、運輸業、郵便業、	工学分野、総合科学分野、人文・社会・人間科学分野、心理学分野、理学分野、
	学術研究、専門・技術サービス業、	理学分野、工学分野、

「博士を意識して採用している」と回答した企業にとどまらず、「採用していない」と回答した企業も今後の需要の高まる見通しを述べていることが確認できる。また、各地域、多様な業種で、「高まる」と予測する企業等が確認できる。特に、公務や、宿泊業・飲食サービス業の企業等も「高まる」と予想していることが確認できる。

採用の現状について、過去3か年の博士の学位保有者の採用数について尋ねた。結果を表9に示す。

表9

採用実績(人)	度数
1	5
2	1
8	7
10	1
3	2
400	1
4	1

博士人材の採用実績のある企業の詳細を表 10 に示す。

表 10

地域	業種
中国	公務(他に分類されるものを除く)、
	製造業、
	金融業、保険業、
四国	漁業、卸売業、小売業、製造業、学術研究、専門・技術サービス業、
	電気、ガス、熱供給、水道業、
	製造業、医療、福祉、
	教育、学習支援業、
	教育、学習支援業、
	教育、学習支援業、学術研究、専門・技術サービス業、
	教育、学習支援業、学術研究、専門・技術サービス業、
	教育、学習支援業、
	教育、学習支援業、
	近畿
中部	製造業、
	学術研究、専門・技術サービス業、
関東	建設業、

企業等自身の事業と人材養成の必要から、博士の取得を大学院への派遣を通じて実施した実績を尋ねた。10社が過去3年間において、各1名を大学院博士課程(後期)に派遣していることが確認できる。詳細を表 11 に示す。

表 11

地域	業種	採用分野
四国	製造業	総合科学分野、工学分野、薬学分野
	製造業・医療・福祉	工学分野、農学分野、医学分野、薬学分野、保健学分野
	教育、学習支援業	工学分野
	教育、学習支援業	人文・社会・人間科学分野、心理学分野、理学分野、工学分野、
	教育、学習支援業	工学分野、理学分野
	教育、学習支援業・学術研究、専門・技術サービス業	工学分野、人文・社会・人間科学分野、理学分野、

	教育、学習支援業・学術研究・専門・技術サービス業	工学分野、医学分野、農学分野、
	教育、学習支援業	工学分野、
	教育、学習支援業	工学分野、理学分野、人文・社会・人間科学分野、
中国	製造業	工学分野、

※本調査対象には大学法人2校、高専1校が含まれる。

#### 結果4. 魅力度調査結果

以下で、本博士課程（後期）の養成する人材像、教育目標、各学位プログラムの魅力度を調査した結果を示す。

本構想で策定した教育目標/養成する人材像の魅力度の結果を表12に、表13には、本構想における教育方針（「総合知」）に対する回答結果を示す。

創発科学研究科博士課程では、以下の事項を教育目標としています。これらの教育目標にどの程度魅力を感じますか？

軸となる専門分野におけるピアレビューに耐え得る知の深化を促し、さらに既存の専門分野の枠を越えた「総合知」に発展させて社会実装することを目指す。つまり、修士課程で創発した知の端緒を「総合知」として学外に論文発表できるレベルに深化させるとともに、社会課題の解決策として実装することに相当する。

表 12

事項	度数
あまり魅力を感じない	17
ある程度魅力を感じる	72
とても魅力を感じる	21
まったく魅力を感じない	2
合計	112

要素技術どうしを融合（クロス・ディシプレナリー）させたり、要素技術だけでなく実装されるシステム階層の分野まで発展させることを促したりするなど、総合知へと結実するように指導する。

表 13

事項	度数
あまり魅力を感じない	17
ある程度魅力を感じる	73
とても魅力を感じる	20

まったく魅力を感じない	2
合計	112

両者ともに同一の傾向がみられる。「とても魅力がある」と回答した企業等は、20 確認できる。「ある程度」との回答は 73 程度確認できる。両項目ともに「感じない」を大幅に上回る結果となった。

次に、本構想の 3 つの学位プログラム「社会創発プログラム」、「先端工学デザインプログラム」、「レジリエント社会共創プログラム」の魅力度を尋ねた。結果を下記に示す。

### 「社会創発プログラム」

本学の強みである地域デザイン、観光地域戦略、多文化共生、政策法務を基盤としながら複数分野の知見を活用し、グローバルな視野のもとに総合知を形成することで、多様性の包摂と持続可能な地域社会の実現と現代社会における諸課題を総合知により効果的に解決に導ける人材の養成

表 14

事項	度数
あまり魅力を感じない	10
ある程度魅力を感じる	65
とても魅力を感じる	37
合計	112

表 15

地域	業種	度数
関東	電気、ガス、熱供給、水道業・建設業	1
	製造業・運輸業、郵便業	1
	情報通信業	1
中部	サービス業(他に分類されないもの)	1
近畿	製造業;	1
	学術研究、専門・技術サービス業;	1
中国	金融業、保険業;	1
	卸売業、小売業;	1
	製造業;その他;	1
	学術研究、専門・技術サービス業;	2
	建設業;	1
	複合サービス業;	1

	金融業、保険業;	1
	公務(他に分類されるものを除く);	1
四国	漁業;卸売業、小売業;製造業;学術研究、専門・技術サービス業;	1
	卸売業、小売業;	3
	宿泊業、飲食サービス業;	1
	公務(他に分類されるものを除く);	5
	その他;	1
	製造業;	2
	その他;	1
	金融業、保険業;	2
	教育、学習支援業;	4
	電気、ガス、熱供給、水道業;情報通信業;卸売業、小売業;不動産業、物品賃貸業;宿泊業、飲食サービス業;	1
	公務(他に分類されるものを除く);	1

多様な業種が「とても魅力がある」と回答していることが確認できる。

#### 「先端工学デザインプログラム」

工学・自然科学に対する深い知識と理解を有し、当該の工学・自然科学の分野における知を深化させるとともに、人文社会科学を含めて分野を複合的に跨いで、課題解決として社会実装と豊かな環境の保全を総合知によって実現する人材、或いは、工学・自然科学に対する深い知識と理解を有し、当該の工学・自然科学の分野における知を進化させるとともに、人文社会科学を含めて分野を複合的に跨いで、課題解決として社会実践を総合知によって実現する人材

表 16

事項	度数
あまり魅力を感じない	12
ある程度魅力を感じる	63
とても魅力を感じる	37
合計	112

表 17

地域	業種	度数
関東	電気、ガス、熱供給、水道業;建設業	1
	サービス業(他に分類されないもの)	1

	建設業	1
	製造業・運輸業、郵便業	1
	情報通信業	1
中部	学術研究、専門・技術サービス業	1
	サービス業(他に分類されないもの)	1
近畿	製造業	1
	卸売業、小売業	1
	運輸業、郵便業	1
	学術研究、専門・技術サービス業	1
四国	製造業	3
	教育、学習支援業	5
	卸売業、小売業	2
	公務(他に分類されるものを除く)	3
	漁業;卸売業、小売業;製造業;学術研究、専門・技術サービス業	1
	金融業、保険業	1
	製造業;医療、福祉	1
	電気、ガス、熱供給、水道業・情報通信業;卸売業、小売業・不動産業、物品賃貸業・ 宿泊業、飲食サービス業	1
	その他	1

#### 「レジリエント社会共創プログラム」

研究対象とする危機に対する深い問題意識と工学・自然科学の理解を基盤としながら、危機管理学の分野融合性を活用し、安全でレジリエントな都市・居住環境を構築するとともに、社会の課題解決を旨として効果的な総合知を獲得する能力を有しており、より汎用的な解決へ応用展開できる柔軟な思考・コミュニケーション能力を有する等、様々な危機に対応できる人材の養成

表 18

事項	度数
あまり魅力を感じない	10
ある程度魅力を感じる	61
とても魅力を感じる	41
合計	112

表 19

地域	業種	度数
関東	電気、ガス、熱供給、水道業;建設業	1
	サービス業(他に分類されないもの);	1
	建設業;	1
	情報通信業;	1
中部	学術研究、専門・技術サービス業;	1
近畿	製造業;	1
	運輸業、郵便業;	1
	金融、保険業	1
	学術研究、専門・技術サービス業;	1
中国	建設業;	2
	金融業、保険業	1
	卸売業、小売業	1
	情報通信業	2
	複合サービス業	1
	サービス業(他に分類されないもの);医療、福祉;建設業;製造業	1
四国	教育、学習支援業;	5
	学術研究、専門・技術サービス業	1
	教育、学習支援業・学術研究、専門・技術サービス業	1
	公務(他に分類されるものを除く)	4
	製造業	3
	建設業	3
	金融業、保険業	2
	卸売業、小売業	2
	漁業・卸売業、小売業・製造業・学術研究、専門・技術サービス業	1
	電気、ガス、熱供給、水道業・情報通信業・卸売業、小売業・不動産業、 物品賃貸業;宿泊業、飲食サービス業	1
	その他	1

### 結果5. 採用意向調査結果

教育目標/養成する人材像、各学位プログラムについて尋ねた上で、企業等の採用意向を尋ねた。結果を下表に示す。



表 20

事項	度数
今後検討したい	34
採用しない	9
将来的に採用する可能性はある	44
是非採用したい	25
合計	112

「是非採用したい」と回答した企業は 25 社が確認できる。当該 25 社を地域別業種別に区分し表 21 に示す。

表 21

地域	業種	参考(採用分野)
関東	建設業	総合科学分野;工学分野;理学分野;農学分野;
	電気、ガス、熱供給、水道業、建設業	総合科学分野;人文・社会・人間科学分野;心理学分野;理学分野;工学分野;農学分野;食物学分野;栄養学分野;歯学分野;薬学分野;医学分野;保健学分野;
	製造業、運輸業、郵便業	工学分野;総合科学分野;人文・社会・人間科学分野;心理学分野;理学分野;
	情報通信業	総合科学分野;人文・社会・人間科学分野;心理学分野;理学分野;工学分野;
近畿	製造業	工学分野
	学術研究、専門・技術サービス業	理学分野;工学分野
四国	公務(他に分類されるものを除く)	総合科学分野;人文・社会・人間科学分野;心理学分野;理学分野;工学分野;農学分野;食物学分野;栄養学分野;医学分野;歯学分野;薬学分野;保健学分野;
	その他	総合科学分野;人文・社会・人間科学分野;心理学分野;理学分野;工学分野;農学分野;食物学分野;栄養学分野;
	卸売業、小売業	総合科学分野;理学分野;工学分野;薬学分野;
	製造業	人文・社会・人間科学分野;工学分野;理学分野;総合科学分野;農学分野;

	金融業、保険業	総合科学分野;人文・社会・人間科学分野; 心理学分野;
	建設業	工学分野;
	公務(他に分類されるものを除く)	工学分野;薬学分野;総合科学分野;人文・ 社会・人間科学分野;心理学分野;理学分 野;保健学分野;
	建設業	工学分野;
	教育、学習支援業	工学分野;
	教育、学習支援業	工学分野;
	電気、ガス、熱供給、水道業;情報通信業;卸売業、小売業; 不動産業、物品賃貸業;宿泊業、飲食サービス業	総合科学分野;工学分野;理学分野;農学分 野;食物学分野;栄養学分野;
	学術研究、専門・技術サービス業	工学分野;
中国	建設業	総合科学分野;人文・社会・人間科学分野; 心理学分野;理学分野;工学分野;農学分 野;食物学分野;栄養学分野;医学分野;歯 学分野;薬学分野;保健学分野;
	複合サービス業	総合科学分野;人文・社会・人間科学分野; 心理学分野;理学分野;工学分野;農学分 野;食物学分野;栄養学分野;保健学分野;
	情報通信業	工学分野;理学分野;
	学術研究、専門・技術サービス業	総合科学分野;人文・社会・人間科学分野; 心理学分野;理学分野;工学分野;農学分 野;
中部	学術研究、専門・技術サービス業	総合科学分野;人文・社会・人間科学分野; 心理学分野;理学分野;工学分野;農学分 野;食物学分野;栄養学分野;
	サービス業(他に分類されないもの)	総合科学分野;人文・社会・人間科学分野; 心理学分野;理学分野;工学分野;農学分 野;食物学分野;栄養学分野;医学分野;歯 学分野;薬学分野;保健学分野;
	製造業	工学分野;理学分野;

採用意向を示した企業等が求める学位を表 22 に示す。

表 22

地域	業種	プログラム
関東	建設業	工学、危機管理
	電気、ガス、熱供給、水道業;建設業	工学、危機管理;学術
	製造業;運輸業、郵便業	工学
	情報通信業	工学、学術
近畿	製造業	工学
	学術研究、専門・技術サービス業	工学
四国	公務(他に分類されるものを除く)	工学、危機管理;学術
	その他	工学、学術、危機管理;
	卸売業、小売業	工学
	製造業	工学、危機管理、学術
	金融業、保険業	危機管理、学術、工学
	建設業	工学
	公務(他に分類されるものを除く)	学術、危機管理、工学
	建設業	工学、危機管理
	教育、学習支援業	工学
	教育、学習支援業	工学
	電気、ガス、熱供給、水道業;情報通信業・卸売業、小売業・不動産業、物品賃貸業・宿泊業、飲食サービス業	工学、危機管理、学術
	学術研究、専門・技術サービス業	危機管理、工学
	中国	建設業
複合サービス業		工学、危機管理、学術
情報通信業		工学、危機管理
学術研究、専門・技術サービス業		工学
中部	学術研究、専門・技術サービス業	工学
	サービス業(他に分類されないもの)	工学、危機管理;学術
	製造業	工学

求められる学位は、「工学」、「危機管理」、「学術」の順となっている。

博士人材を採用するにあたり、重視する能力を、本学の構想に踏まえた候補を設け、企業等に選択していただいた結果を下表に示す。

表 23

事項	度数
イノベーションを生み出す独自の発想力・豊かな創造力	51
グローバルな視野と研究発信力	33
フォロワーシップ	1
課題発見・解決能力	83
研究の広範な応用力、展開力、実装力	30
行動力・リーダーシップ	88
他者との連携・協働力	54
分野横断的な多角的視野	51

「行動力・リーダーシップ」と「課題発見・解決能力」の度数が最も高い。「他者との連携・協働」、「分野横断的な多角的な視野」、「イノベーションを生み出す独自の発想力・豊かな創造力」が続く。

#### 結果5. 職員派遣意向調査結果

企業等に対しては、企業等に所属する職員の本研究科への派遣意向について尋ねた。結果を下記に記載する。派遣した場合、取得させたい学位を表 24 に、本博士課程（後期）への派遣意向の結果を表 25 に示す。

表 25

学位	度数
博士(学術)	9
博士(危機管理学)	31
博士(工学)	72
合計	112

表 26

事項	度数
可能性はない	39
今後検討したい	44
将来的に入学させる可能性はある	7
是非入学させたい	3
本人が希望すれば入学させる可能性はある	19
合計	112

「是非入学させたい」と回答した企業等が3確認できる。「本人（所属する職員等）の希望による」とするものは19社確認できる。

「是非入学させたい」と回答したのは、近畿（製造業）1件、関東（電気、ガス、熱供給、建設業）1件、中部（製造業）1件である。

「本人が希望すれば入学させる可能性はある」と回答したのは、関東（建設業2、情報通信業1）3、中部（学術研究、専門・技術サービス業）1、中国（卸売・小売1、公務2、サービス業2）5、四国（卸売・小売3、教育、学習支援・専門技術サービス業2、宿泊・飲食サービス1、製造業1、漁業・製造・専門・技術サービス業1、公務2）10である。

## 結果6. 支援制度調査結果

社員等が創発科学研究科博士課程（後期）に入学する際に、どのような学生支援などがあるとよいと考えるかを尋ねた結果を表27に示す。

表 27

事項	度数
共同研究	1
週末・夜間開講、Zoom や Skype による遠隔指導など、社会人に適した開講方式	80
奨学金制度	7
働きながら6年程度の長期期間で修了できる制度	48
入学の可能性は無し	1
入学料や授業料等の減免制度	51
博士の学位を取得していることが入社時の要件ですので、在職中に入学希望者がいないかもしれない	1

「週末・夜間開講、Zoom や Skype による遠隔指導など、社会人に適した開講方式」、「働きながら6年程度の長期期間で修了できる制度」、「入学料や授業料等の減免制度」に多くの度数が見られる。業務との両立が企業等にとって望ましいことが推察される。さらに経費の軽減も望まれていることが推察される。

## 結果7. 自由記載結果

企業等から寄せられた内容を下記に示す。

事項
改編業務お疲れ様です。
学生の指導体制を盤石にしてほしい。
計画を支持します。

---

社会の変化に対応出来る人材力の育成だと思いますが、表現をもっとシンプル化しないと何に取組もうとしているのかが判りにくい。

---

社会課題を解決するには総合知の動員と実践が重要だと考えており、貴学の目指す方針は社会ニーズに適したものだと感じております。

---

地域と密着した研究、人材育成をお願いしたい。

---

特になし

---

分野横断的な教育内容よりも、特定の領域に特化した研究の方が、研究者様のキャリアに対する理解がしやすい気がいたします。

---

#### [分析]

本博士課程（後期）の構想は、教育目標/養成する人材像、各学位プログラムともに、企業等から肯定的な評価を受けたと考える。すなわち、本構想と企業等が求める人材とはある程度整合性が見られる。

また、広い意味での需要動向の見通しとしては、本学が従前に想定していた工学分野で対応可能な業種から、観光や公務など、人文・社会科学を含んだ領域、業種へと拡大しつつあると推察される。今後博士人材の需要は増加していくと期待される。

しかしながら、採用の具体にあたっては、「博士」と「修士」の区分を行っている企業等の方が少数にとどまり、博士人材の採用実績や派遣実績も少数にとどまっている。

その中であっても、本学の構想にもとづけば、工学に対する需要は継続して確認された。さらに、新たに「危機管理学」を身に着けた人材が多様な業種で求められていることが確認された。

また、博士人材に求められる能力として、最も高い頻度を示したのは、「行動力・リーダーシップ」であり、研究や課題発見・解決に資する諸能力にとどまらず、修士や学士からも構成されるグループを牽引する能力が求められている。

また、職員が博士課程に入学するとした仮定した際、求められる支援策は、「週末・夜間開講、Zoom や Skype による遠隔指導など、社会人に適した開講方式」、「働きながら6年程度の長期期間で修了できる制度」、「入学料や授業料等の減免制度」に多くの回答が見られた。業務との両立が企業等にとって優先されることが推察される。さらに経費の軽減も望まれていることが推察される。

#### [採用意向]

本博士課程（後期）修了者の企業等の採用意向は下記のとおりであった。

採用意向（「是非採用したい」） 25社

[派遣（入学）意向]

本博士課程（後期）への職員の派遣意思は下記のとおりであった。

「是非入学させたい」	3社
「本人（所属する職員等）の希望による」	19社

(参考) アンケート項目 (企業等対象)

#### 前文

香川大学では、令和2年4月に開設した創発科学研究科創発科学専攻(修士課程)に接続する博士課程を、工学研究科博士課程(後期)を活用して、設置する計画を進めております。

設置は、令和6年4月を予定しております。

本アンケートは、企業・団体の皆様からご意見をお伺いし、社会・産業界のニーズに対応できる大学院の設置計画の参考にさせていただくものです。

Q1 御社の所在地について教えてください。

- ①北海道 ②東北 ③関東 ④中部 ⑤近畿 ⑥中国 ⑦四国 ⑧九州

Q2 御社の業種についてご回答ください(複数回答可)

- ①農業、林業  
②漁業  
③鉱業、採石業、砂利採取業  
④建設業  
⑤製造業  
⑥電気、ガス、熱供給、水道業  
⑦情報通信業  
⑧運輸業、郵便業  
⑨卸売業、小売業  
⑩金融業、保険業  
⑪不動産業、物品賃貸業  
⑫学術研究、専門・技術サービス業  
⑬宿泊業、飲食サービス業  
⑭生活関連サービス業、娯楽業  
⑮教育、学習支援業  
⑯医療、福祉  
⑰複合サービス業  
⑱サービス業(他に分類されないもの)  
⑲公務(他に分類されるものを除く)  
⑳その他



Q3 御社ではどのような分野の学部（大学院）を卒業（修了）した人物を採用したいとお考えですか？（複数回答可）

- ①総合科学分野
- ②人文・社会・人間科学分野
- ③心理学分野
- ④理学分野
- ⑤工学分野
- ⑥農学分野
- ⑦食物学分野
- ⑧栄養学分野
- ⑨医学分野
- ⑩歯学分野
- ⑪薬学分野
- ⑫保健学分野

Q4 御社において、大学院博士課程（後期）修了生を採用した実績がある場合、または採用しようとしている場合に、大学院修士課程（博士前期課程）修了生と博士後期課程修了生の違いを意識していますか。

- ①意識している
- ②意識していない

Q5 Q4で①を選択した場合にお伺いします。意識している部分について差し支えない範囲でお教えてください。

（自由記述 \_\_\_\_\_）

Q6 御社において、今後、大学院博士課程（後期）修了生の必要性（採用見通し）は高まりますか。

- ①大きく高まる
- ②ある程度高まる
- ③現在と変わらない
- ④減る
- ⑤わからない

Q7 御社における採用の現状について、過去3か年の博士の学位保有者の採用数について教えてください。

過去3年 合計〇〇名 程度 ※不明な場合は未記入でも差支えありません

Q8 御社における社員・職員が、過去3年の間に在職中に博士の学位を取得した実績について教えてください。

過去3年 合計〇〇名 程度 ※不明な場合は未記入でも差支えありません

Q9 創発科学研究科博士課程では、以下の事項を教育目標としています。これらの教育目標にどの程度魅力を感じますか？

それぞれ該当するもの1つにチェックしてください。

○軸となる専門分野におけるピアレビューに耐え得る知の深化を促し、さらに既存の専門分野の枠を越えた「総合知」に発展させて社会実装することを目指す。つまり、修士課程で創発した知の端緒を「総合知」として学外に論文発表できるレベルに深化させるとともに、社会課題の解決策として実装することに相当する。

- とても魅力を感じる
- ある程度魅力を感じる
- あまり魅力を感じない
- まったく魅力を感じない

○要素技術どうしを融合（クロス・ディシプリナリー）させたり、要素技術だけでなく実装されるシステム階層の分野まで発展させることを促したりするなど、総合知へと結実するように指導する。

- とても魅力を感じる
- ある程度魅力を感じる
- あまり魅力を感じない
- まったく魅力を感じない

○本学の強みである地域デザイン、観光地域戦略、多文化共生、政策法務を基盤としながら複数分野の知見を活用し、グローバルな視野のもとに総合知を形成することで、多様性の包摂と持続可能な地域社会の実現と現代社会における諸課題を総合知により効果的に解決に導ける人材の養成

- とても魅力を感じる
- ある程度魅力を感じる
- あまり魅力を感じない
- まったく魅力を感じない

○工学・自然科学に対する深い知識と理解を有し、当該の工学・自然科学の分野における知を深化させるとともに、人文社会科学を含めて分野を複合的に跨いで、課題解決として社会実装と豊かな環境の保全を総合知によって実現する人材、あるいは、人文・社会系に対する深い知識と理解を有し、当該の人文・社会系の分野における知を深化させるとともに、人文・社会系の他分野、工学・自然科学を含めて分野を複合的に跨いで、課題解決として社会実装と豊かな環境の保全を総合知によって実現する人材の養成

- とても魅力を感じる
- ある程度魅力を感じる
- あまり魅力を感じない
- まったく魅力を感じない

○研究対象とする危機に対する深い問題意識と工学・自然科学の理解を基盤としながら、危機管理学の分野融合性を活用し、安全でレジリエントな都市・居住環境を構築するとともに、社会の課題解決を旨として効果的な総合知を獲得する能力を有しており、より汎用的な解決へ応用展開できる柔軟な思考・コミュニケーション能力を有する等、様々な危機に対応できる人材の養成

- とても魅力を感じる
- ある程度魅力を感じる
- あまり魅力を感じない
- まったく魅力を感じない

Q10 創発科学専攻（博士後期課程）を修了し、博士の学位を取得した学生を採用する可能性はありますか？（該当するもの1つにチェック）

- (1) 是非採用したい
- (2) 将来的に採用する可能性はある
- (3) 今後検討したい
- (4) 採用しない

Q11 どのプログラムを修了した博士号取得者を採用したいですか？  
（該当するものすべてにチェック）

- (1) 工学
- (2) 危機管理
- (3) 学術

Q12 採用にあたり大学院修了生に求める能力で、御社が重視する項目を以下の中からお選びください。（複数回答可）

- ①専門分野に関する高度な知識・技能
- ②分野横断的な多角的視野
- ③課題発見・解決能力
- ④グローバルな視野と研究発信力
- ⑤他者との連携・協働力
- ⑥行動力・リーダーシップ
- ⑦イノベーションを生み出す独自の発想力・豊かな創造力
- ⑧研究の広範な応用力、展開力、実装力
- ⑨その他

Q13. 社員・職員を創発科学専攻（博士課程）に入学させる可能性はありますか？（該当するもの1つにチェック）

- (1) 是非入学させたい
- (2) 将来的に入学させる可能性はある
- (3) 本人が希望すれば入学させる可能性はある
- (4) 今後検討したい
- (5) 可能性はない→

Q14 社員・職員を創発科学専攻に入学させる場合、どの学位を取得させたいですか？（該当するもの1つにチェック）

- (1) 博士（工学）
- (2) 博士（危機管理学）
- (3) 博士（学術）

Q15 御社の社員等が創発科学研究科博士課程に入学する際に、どのような学生支援などがあるとよいと考えますか。（複数回答可）

- (1) 働きながら6年程度の長期期間で修了できる制度
- (2) 週末・夜間開講、Zoom や Skype による遠隔指導など、社会人に適した開講方式
- (3) 入学料や授業料等の減免制度
- (4) 奨学金制度
- (5) その他（具体的にお書きください）

Q16 改編計画を含め、本学の博士後期課程に対する意見、要望をお聞かせください。  
自由記述

**在学生対象アンケート調査(予備調査)**  
**【創発科学研究科創発科学専攻1年次生対象調査】**

実施日 : 令和4年10月～11月  
 目的 : 創発研究科学生(1年次生)の博士課程(後期)への進学意欲の把握  
 博士課程(後期)への進学阻害要因の推定  
 対象 : 創発科学研究科(修士課程)に在籍する学生 136名  
 方法 : WEBアンケート(Forms)  
 用紙 : 別紙のとおり  
 説明資料 : 別紙のとおり  
 結果 : 回答者数42名(N=42名とする)

**結果**

## 調査項目(問 詳細)

	項目
Q1	あなたの所属する研究科は？ [選択]
Q2	領域を選択してください。 [選択]
Q3	あなたの学年は？ [選択]
Q4	博士後期課程に進学を希望しますか？ [選択]
Q5	創発科学研究科博士後期課程が設置された場合、進学を希望しますか？ [選択]
Q6	博士後期課程に進学する場合、取得を希望する学位は何ですか？ [選択]
Q7	創発科学研究科博士後期課程に進学する場合、取得を希望する学位は何ですか？ [選択]
Q8	博士課程への進学を考える場合、気になる点がありますか？ [複数選択可]
Q9	博士課程への進学を考える場合、どのような支援策があればよいと考えますか？ [自由記載]

回答者数=42人(N=42)

(内訳)

教育・人文系領域	2人
法学系領域	0人
経済学系領域	4人
工学系領域	36人

Q4 博士後期課程に進学を希望しますか？

進学したい 4人  
進学を考えている 3人  
どちらともいえない 2人  
進学は考えていない 20人  
進学しない 13人

Q5 創発科学研究科博士後期課程が設置された場合、進学を希望しますか？

進学したい 3人  
進学を考えている 5人  
どちらともいえない 1人

Q6 博士後期課程に進学する場合、取得を希望する学位は何ですか？

博士（学術） 6人  
博士（工学） 3人

Q7 創発科学研究科博士後期課程に進学する場合、取得を希望する学位は何ですか？

博士（学術） 6人  
博士（工学） 3人

Q8 博士課程への入学を考える場合、気になる点がありますか？（複数回答可）

回答内容	度数
博士後期課程在学中の学費	28
就職先	26
博士後期課程在学中の財政支援（学費以外）	21
研究支援制度	18
社会人学生の場合の所属企業側の支援制度（休職制度等）；	5
経済学から学術への難易度；	1
専攻している領域の学位が取得できない	1
博士後期課程在学中の学費；業務やプライベート（子育て）との両立；	1
長期履修制度、早期修了制度について；	1

Q9 博士課程への入学を考える場合、どのような支援策があればよいと考えますか？

回答内容
やはり経済的な支援が必要だろうと思います。また、卒業後の進路の展望があれば入学、通学しやすいのではないかと考えます。
現在は、創発科学研究科の修士（教育学）なので、引き続き博士課程（教育学）があると嬉しい。もしくは、教育の学生が進学できる博士課程の分野を知りたい。
学費の免除や研究員制度などによる経済的支援
給付型奨学金があれば進学する人がいるかもしれません。民間の博士課程に関わる奨学金の周知もした方がよいと思います。企業に入社することで返済が免除される制度もあるようです。
学費免除に加え、研究員費を出す
絶対に作るのをやめて下さい。無駄です。
進学を考えている全員がお金の心配なく勉強、研究に励むことができる環境を作る
学費の一部補助、昇給
学費の負担
学費などの学生の財政への支援

[分析]

「Q4 博士課程への進学を希望しますか？」という問いでは、42人中、「進学したい」と回答した者は4人、「進学を考えている」と回答したものは3人であった。博士課程（後期）への進学を希望している学生が確認できた。

「Q5 創発科学研究科博士後期課程が設置された場合、進学を希望しますか？」という問いでは、42人中、「進学したい」と回答した者は3人、「進学を考えている」と回答した者は5人であった。「進学したい」と応えた者の内訳は、経済学系領域2名、工学系領域1名であった。「進学を考えている」と回答した5人は、教育・人文系領域1名、経済学系領域1名、工学系領域3名であった。

これら「進学したい」、「進学を考えている」と回答したものが取得を希望する学位の専攻分野の名称は、博士（学術）が5人、博士（工学）3人であった。

博士課程への進学を阻害する要因としては、Q8から「学費」、「就職先」、「在学中の財政支援（学費以外）」、「研究支援制度」が高い頻度で見られた。少数ながら「社会人学生の場合の所属企業の支援制度（休職制度等）」、「長期履修制度・早期修了制度」が挙げられている。さらに、ら専門とする分野と博士（後期）での教育・研究分野の整合の不安や「業務やプライベート（子育て）との両立」に触れる回答が見られた。Q9では求める支援策について問うたところ、「経済的支援（奨学金、学費免除、研究費支援など）」が大半であった。Q8及びQ9からは、「学費などの経済的な問題」、「就職先」の問題を中心に学生は、博士課程の進学を捉えていると推察された。

## 在学対象アンケート調査(予備調査)

## 【本学他研究科学生対象調査】

- 実施日 : 令和4年10月～11月
- 目的 : 創発科学研究科を除く本学の他研究科に所属する学生(1～2年次のもの)
- ①博士課程(後期)への進学意欲の把握、博士課程(後期)への進学阻害要因の推定
- ②他の分野等を専門とする学生(社会人学生含む)の創発科学研究科への関心の有無及び進学意欲の把握
- 対象 : 教育学研究科(専門職学位課程)  
 法学研究科(2年次生のみ在籍)  
 経済学研究科(2年次生のみ在籍)  
 医学系研究科(修士課程:看護学専攻、臨床心理学専攻)  
 工学研究科(博士前期課程:2年次のみ在籍)  
 農学研究科(修士課程)  
 地域マネジメント研究科(専門職学位課程)
- 方法 : WEB アンケート(Forms)
- 用紙 : 別紙のとおり
- 説明資料 : 別紙のとおり
- 結果 : 回答者数 69 名 (N=69 名とする)

## 結果

## 調査項目(問 詳細)

	項目
Q1	あなたの所属する研究科は？ [選択]
Q2	領域を選択してください。 [選択]
Q3	あなたの学年は？ [選択]
Q4	博士後期課程に進学を希望しますか？ [選択]
Q5	創発科学研究科博士後期課程が設置された場合、進学を希望しますか？ [選択]
Q6	博士後期課程に進学する場合、取得を希望する学位は何ですか？ [選択]
Q7	創発科学研究科博士後期課程に進学する場合、取得を希望する学位は何ですか？ [選択]
Q8	博士課程への進学を考える場合、気になる点がありますか？ [複数選択可]
Q9	博士課程への進学を考える場合、どのような支援策があればよいと考えますか？ [自由記載]

回答者数 = 69 人 (N=69)



(内訳)

教育学研究科（専門職学位課程）	7人（1年次6人、2年次1人）
法学研究科	1人（2年次1人）
経済学研究科	2人（2年次2人）
医学系研究科	8人（2年次3人、1年次5人）
工学研究科（博士前期課程）	17人（2年次17人）
地域マネジメント研究科（専門職学位課程）	20人（2年次10人、1年次10人）
農学研究科	14人（2年次9人、1年次5人）

**Q4 博士後期課程に進学を希望しますか？**

進学したい	3人
進学を考えている	4人
どちらともいえない	7人
進学は考えていない	25人
進学しない	30人

(内訳)

○進学したいと回答したもの

3人

医学系研究科2年次	1人
医学系研究科1年次	1人
地域マネジメント研究科1年次	1人

○進学を考えている

4人

工学研究科博士前期課程2年次	1人
地域マネジメント研究科2年次	2人
地域マネジメント研究科1年次	1人

**Q5 創発科学研究科博士後期課程が設置された場合、進学を希望しますか？**

進学したい	2人
進学を考えている	5人
どちらともいえない	6人
進学しない	1人

内訳)

○進学したいと回答したもの

2人

医学系研究科1年次 1人

地域マネジメント研究科1年次 1人

○進学を考えている

5人

教育学研究科2年次 1人

工学研究科2年次 1人

地域マネジメント研究科2年次 2人

地域マネジメント研究科1年次 1人

Q6 博士後期課程に進学する場合、取得を希望する学位は何ですか？

博士（学術） 12人

Q7 創発科学研究科博士後期課程に進学する場合、取得を希望する学位は何ですか？

博士（学術） 13人

Q8 博士課程への入学を考える場合、気になる点がありますか？（複数回答可）

回答内容	度数
博士後期課程修了後の就職先;	24
博士後期課程在学中の学費;	23
博士課程進学学生への研究支援制度	20
社会人学生の場合の所属企業側の支援制度（休職制度等）	22
博士後期課程在学中の財政支援（学費以外）	15
博士課程への入学条件	1
授業の時間帯など;	1

Q9 博士課程への入学を考える場合、どのような支援策があればよいと考えますか？

回答内容
仕事との両立が可能か。
手軽な卒業延期政策
研究設備、研究環境を充実させる
生活費
自然現象と向き合う真摯な態度
学費と就職先

就職支援
授業などを夜間にやっていただけると、社会人である我々も取得しやすい。 基本ゼミが中心であるが、課程によっては夜間コースを設けてほしい
地マネに在学中ですが、進学したいと考えています。データサイエンスを使用した経営などをイメージできるのですが、地マネから創発科学研究科への進学イメージをご紹介頂きたいです。
費用面
仕事との両立(定時で業務が終わり、学べる環境)
夜間での対応があれば、社会人も学びを継続できるのではないかと思います。
後期課程に少し興味はあります。 どれくらいの頻度で通うのか(頻繁に対面授業等に参加する必要があるのか)。WEB 対応は可能か。
給付型の財政支援があれば良い
志望学生の相談を設ける。

#### [分析]

「Q4 博士課程への進学を希望しますか?」という問いでは、69 人中、「進学したい」と回答した者は 3 人、「進学を考えている」と回答したものは 4 人であった。博士課程(後期)への進学を希望している学生の存在を確認できた。

「Q5 創発科学研究科博士後期課程が設置された場合、進学を希望しますか?」という問いでは、42 人中、「進学したい」と回答した者は 2 人、「進学を考えている」と回答した者は 5 人 であった。「進学したい」と応えた者の内訳は、医学系研究科 1 年次 1 人、地域マネジメント研究科 1 年次 1 人であった。「進学を考えている」と回答したものの内訳は、工学研究科博士前期 2 年次 1 人、地域マネジメント研究科 2 年次 2 人、地域マネジメント研究科 1 年次 1 名、工学研究科 2 年次 1 人であった。これら「進学したい」、「進学を考えている」と回答したものが取得を希望する学位の専攻分野の名称は、すべて博士(学術)であった。

博士課程への進学を阻害する要因としては、Q8 から「就職先」、「学費」、「在学中の財政支援(学費以外)」、「研究支援施制度」、「社会人学生の場合の所属企業の支援制度(休職制度等)」、さらに、少数ではあるが、「入学条件」、「授業の時間帯」を挙げる回答が見られた。Q9 では求める支援策について問うたところ、「仕事との両立」、「柔軟な修業期間・方法(夜間開講、WEB 開講など)」、「費用・財政支援」が挙げられた。さらに「進学についての説明の機会」提供もみられた。Q8 及び Q9 からは、社会人学生が含まれているためか、社会人としての「仕事との両立」とそのための「柔軟な修業期間・方法」を中心に回答がなされていると推察される。

(参考) アンケート項目 (学生対象/予備調査及び補助調査)

前文

香川大学大学院創発科学研究科では、現行の修士課程に加えて令和6年4月に博士課程の開設を計画しています。

博士課程設置の事前調査として学生の皆さんの進学希望状況を確認するためのアンケートを実施することになりました。

皆さんのご協力をよろしくお願いします。

<博士課程設置の趣旨>

変動の激しい、予測不能な事態が数多く待ち受けると予想される近未来において、総合知に基づいた幅の広い学際領域の知識が求められます。そのためには、深い専門的な知識に加えて、広い分野を横断した「総合知」が求められ、それを網羅した課題解決策とそれを実践できる人材が今まで以上に必要とされています。

博士課程では、現行の工学研究科(博士後期課程)で授与している博士(工学)に加えて、博士(危機管理学)、博士(学術)の計3つの学位を取得できる教育課程(カリキュラム)を構想しています。

特に、博士(学術)は、「幅広い分野にわたって、学際的あるいは分野横断型の研究を行い、その研究過程や成果に学問的価値が認められた場合、博士(学術)を授与する」こととなります。例えば、AI、データサイエンスなども含めたフィジカル空間とサイバー空間を行き来して、仮説とエビデンスを補完し合うような研究や気候変動に対する新たな対応策、さらには農林水産業の6次産業化、観光イノベーションなど、香川大学で博士(学術)を取得する際には、理系の先生のサポートや指導を仰ぐことも可能となります。

Q1.あなたの所属する研究科は？

- ①創発科学研究科
- ②教育学研究科
- ③法学研究科
- ④経済学研究科
- ⑤医学系研究科
- ⑥工学研究科
- ⑦農学研究科
- ⑧地域マネジメント研究科

Q2.創発科学研究科を選択した方に質問です。

領域を選択してください

- ①教育・人文系領域

- ②法学系領域
- ③経済学系領域
- ④工学系領域

Q3.あなたの学年は？

- ①修士課程／博士前期課程 1年
- ②修士課程／博士前期課程 2年
- ③専門職学位課程 1年
- ④専門職学位課程 2年

Q4.博士後期課程に進学を希望しますか？

- ①進学したい
- ②進学を考えている
- ③どちらともいえない
- ④進学は考えていない
- ⑤進学しない

Q5.創発科学研究科博士後期課程が設置された場合、進学を希望しますか？

- ①進学したい
- ②進学を考えている
- ③どちらともいえない
- ④進学は考えていない
- ⑤進学しない

Q6.博士後期課程に進学する場合、取得を希望する学位は何ですか？

- ①博士（学術）
- ②博士（危機管理学）
- ③博士（工学）

Q7.創発科学研究科博士後期課程に進学する場合、取得を希望する学位は何ですか？

- ①博士（学術）
- ②博士（危機管理学）
- ③博士（工学）

Q8.博士課程への入学を考える場合、気になる点がありますか？（複数回答可）

- ①博士課程進学学生への研究支援制度

- ②博士後期課程在学中の学費
- ③博士後期課程在学中の財政支援（学費以外）
- ④博士後期課程修了後の就職先
- ⑤社会人学生の場合の所属企業側の支援制度（休職制度等）
- ⑥その他

Q9.博士課程への入学を考える場合、どのような支援策があればよいと考えますか？

## 大学院学生本学研究科(修士課程/専門職大学院)学生対象アンケート

【本調査：創発科学研究科創発科学専攻1年次生対象調査】

実施対象：受験対象者たる本学大学院学生

実施日：令和5年1月～2月

目的：創発科学研究科への進学意思の確認  
本構想に対する魅力度の調査

博士課程（後期）への進学阻害要因の把握

対象：創発科学研究科（修士課程）に在籍する学生 136名

方法：WEBアンケート(Forms)

用紙：別紙のとおり

説明資料：別紙のとおり

結果：回答者数21人(N=21)

### 結果1 回答者数

本調査の回答者数を表1に示す。合わせて回答者の属性を示す。

所属(研究科)	度数
創発科学研究科	21
合計	21

N=21

系領域毎の内訳を下記に示す。

系領域	度数
教育・人文系領域	1
経済学系領域	1
工学系領域	19
合計	21

最も多く回答したのは、工学系領域の学生である。法学系領域の回答は見られない。

## 結果2 魅力度調査結果

以下で、本博士課程（後期）の養成する人材像、教育目標、各学位プログラムの魅力度を調査した結果を示す。

本構想で策定した教育目標/養成する人材像の魅力度の結果を表3に示す。

Q3. 創発科学研究科博士課程では、以下の事項を教育目標としています。これらの教育目標にどの程度魅力を感じますか？

軸となる専門分野におけるピアレビューに耐え得る知の深化を促し、さらに既存の専門分野の枠を越えた「総合知」に発展させて社会実装することを目指す。つまり、修士課程で創発した知の端緒を「総合知」として学外に論文発表できるレベルに深化させるとともに、社会課題の解決策として実装することに相当する。

表3 (人)

項目	度数
とても魅力を感じる	4
ある程度魅力を感じる	13
あまり魅力を感じない	2
まったく魅力を感じない	2
合計	21

「とても」が4、「ある程度」が13である。魅力を感じない回答は比較的少数となっている。魅力があると答えた回答者の系領域別内訳を下表に示す。

表4 (人)

	教育・人文	法学	経済	工学	合計
とても魅力を感じる			1	3	4
ある程度魅力を感じる	1			12	13

工学系領域の学生と経済学系領域の学生が「とても魅力を感じる」と回答している。

本構想の核のひとつとする「総合知」に基づく指導方針についての結果を表5に示す。合わせて「魅力を感じる」と回答した者の所属と頻度を示す。

要素技術どうしを融合（クロス・ディシプレナリー）させたり、要素技術だけでなく実装されるシステム階層の分野まで発展させることを促したりするなど、総合知へと結実するように指導する。

表5 (人)

項目	度数
とても魅力を感じる	6



ある程度魅力を感じる	10
あまり魅力を感じない	3
まったく魅力を感じない	2
合計	21

表6 (人)

	教育・人文	法学	経済	工学	合計
とても魅力を感じる			1	5	6
ある程度魅力を感じる	1			9	10

表6からは、養成する人材像と同様の傾向がみられる。

下記に、本構想で策定した、「社会創発プログラム」、「先端工学プログラム」、「レジリエント社会共創プログラム」の魅力度の結果を示す。

#### 「社会創発プログラム」

本学の強みである地域デザイン、観光地域戦略、多文化共生、政策法務を基盤としながら複数分野の知見を活用し、グローバルな視野のもとに総合知を形成することで、多様性の包摂と持続可能な地域社会の実現と現代社会における諸課題を総合知により効果的に解決に導ける人材の養成

表7 (人)

項目	度数
とても魅力を感じる	6
ある程度魅力を感じる	9
あまり魅力を感じない	4
まったく魅力を感じない	2
合計	21

表8 (人)

	教育・人文	法学	経済	工学	合計
とても魅力を感じる			1	5	6
ある程度魅力を感じる	1			8	9

教育・人文系領域、経済学系領域にとどまらず、工学系領域の学生からも肯定的評価を得ている。

#### 「先端工学デザインプログラム」

工学・自然科学に対する深い知識と理解を有し、当該の工学・自然科学の分野における知を深化させると

ともに、人文社会科学を含めて分野を複合的に跨いで、課題解決として社会実装と豊かな環境の保全を総合知によって実現する人材、或いは、工学・自然科学に対する深い知識と理解を有し、当該の工学・自然科学の分野における知を進化させるとともに、人文社会科学を含めて分野を複合的に跨いで、課題解決として社会実践を総合知によって実現する人材

表9 (人)

項目	度数
とても魅力を感じる	6
ある程度魅力を感じる	12
あまり魅力を感じない	1
まったく魅力を感じない	2
合計	21

表 10 (人)

	教育・人文	法学	経済	工学	合計
とても魅力を感じる			1	5	6
ある程度魅力を感じる	1			11	12

工学系領域の学生が最も多く、教育・人文系領域、経済学系領域の学生も少数ながら確認できる。

#### 「レジリエント社会共創プログラム」

研究対象とする危機に対する深い問題意識と工学・自然科学の理解を基盤としながら、危機管理学の分野融合性を活用し、安全でレジリエントな都市・居住環境を構築するとともに、社会の課題解決を旨として効果的な総合知を獲得する能力を有しており、より汎用的な解決へ応用展開できる柔軟な思考・コミュニケーション能力を有する等、様々な危機に対応できる人材の養成

表 11 (人)

項目	度数
とても魅力を感じる	7
ある程度魅力を感じる	7
あまり魅力を感じない	5
まったく魅力を感じない	2
合計	21

表 12 (人)

	教育・人文	法学	経済	工学	合計
--	-------	----	----	----	----

とても魅力を感じる			1	6	7
ある程度魅力を感じる	1			6	7

工学系領域の学生が他の系領域に比較して高く評価している、教育・人文系領域、経済学系領域の学生も少数ながら確認できる。

教育目標/養成する人材像、各学位プログラムを総括し、本構想に対する関心度を尋ねた結果を表 13 に示す。合わせて、「関心を持った」と回答した者の内訳を表 14 に示す。

表 13 (人)

項目	度数
大いに関心を持った	5
関心を持った	3
やや関心を持った	6
関心はない	7
合計	21

表 14 (人)

	教育・人文	法学	経済	工学	合計
大いに関心をもった			1	4	5
関心を持った	1			2	3

「大いに関心をもった」と回答した学生の内訳は、工学系領域 4、経済学系領域 1 である。また、「関心を持った」学生には教育・人文系領域の学生も 1 人確認できる。

本構想に「大いに」又は「関心を持った」者が特に何に関心をもったかを尋ねた結果(関心の対象)を表 15 に示す。本項目は、複数回答可としている。

表 15 (人)

項目	度数
ELSI&グローバルマインドなど授業科目に興味があるから	1
分野横断・学際的な教育研究指導体制に魅力を感じるから	12
学位プログラムに魅力を感じるから	5
学位としての博士が今後必要と考えるから	6
教育学、法学、経済学などの分野の研究を行いたいから	1
教育内容が将来の就職・転職に有利そうだから	5
社会人特別プログラムなど社会人に配慮した教育課程が整備されているから	3

教育内容が現在・将来の自分の職務に役立ちそうだから	5
---------------------------	---

最も高い度数を示したのは「分野横断・学際的な教育研究指導体制」である。続いて「学位としての博士は今後必要と考えるから」となっている。続いて「学位プログラムに魅力を感じるから」、「教育内容が将来の就職・転職に有利そうだから」である。

先に本構想に「関心をもった」と回答した8名の関心の対象を表16に示す。

表 16 (人)

項目	度数
分野横断・学際的な教育研究指導体制に魅力を感じるから	7
学位としての博士が今後必要と考えるから	5
教育内容が現在・将来の自分の職務に役立ちそうだから	3
社会人特別プログラムなど社会人に配慮した教育課程が整備されているから	3
学位プログラムに魅力を感じるから	2
教育内容が将来の就職・転職に有利そうだから	2
ELSI&グローバルマインドなど授業科目に興味があるから	1
学位プログラムに魅力を感じるから	1

「分野横断・学際的な教育研究指導体制」への関心が最も高い。続いて、「学位としての博士が今後必要と考えるから」が続く。「学位プログラムの魅力」、「社会人特別プログラム、教育内容の職業的意義」も確認できる。

さらに、所属別の回答を表17に示す。

表 17 (人)

項目	教・人	法学	経済	工学
分野横断・学際的な教育研究指導体制に魅力を感じるから	1		1	4
教育学、法学、経済学などの分野の研究を行いたいから				
学位プログラムに魅力を感じるから			1	2
学位としての博士が今後必要と考えるから	1		1	3
社会人特別プログラムなど社会人に配慮した教育課程の整備	1			2
ELSI & グローバルマインドなど授業科目に興味があるから				1
教育内容が将来の就職・転職に有利そうだから				1
教育内容が現在・将来の自分の職務に役立ちそうだから				4

工学系領域の学生は、「分野横断・学際的な教育研究指導体制」、「教育内容が現在・将来

の自分の職務に役立つ」、「学位としての博士が今後必要と考える」に比較的多く回答している。教育・人文、経済学の学生は1名ではあるが、「分野横断・学際的」、「博士の必要性」、「社会人特別プログラムなど」を評価していることが確認できる。

### 結果3。進学意向結果

Q 創発科学研究科博士課程が開設された場合、進学を希望しますか？該当するもの1つにチェックしてください。

表 18 (人)

項目	度数
修士課程修了後、進学して取得したい	4
進学を検討したい	2
社会人となってから、ある程度経験を積んだ上で進学して取得したい	1
社会人となってから、機会があれば進学を検討したい	1
まだわからない	5
進学を希望しない	8
合計	21

本博士課程（後期）への進学意向は4人が確認できる。また、「社会経験を積んでからの進学」を希望する者は1名、「進学を検討したい」とするものは2人確認できる。

先に本構想に「大いに関心がある」と応えた者の進学意向状況を表19に示す。

表 19 (人)

項目	教・人	法学	経済	工学
修士課程修了後、進学して取得したい			1	2
進学を検討したい				
社会人となってから、ある程度経験を積んだ上で進学して取得したい				1
社会人となってから、機会があれば進学を検討したい				
まだわからない				1
進学を希望しない				

「大いに関心がある」と開講した者のうち、経済学系領域1人、工学系領域2人が進学意向を示している。工学系領域のうち1人は、「社会人となってから、ある程度経験を積んだ上で進学して取得したい」と回答している。

博士課程（後期）進学にあたっての阻害要因の推定を目的として、受験対象者にどのような条件が整えば進学するかを尋ねた。結果を表20に示す。

表 20

(人)

項目	度数
経済的負担が軽減されている（授業料免除、奨学金制度の充実）	10
自分のやりたい研究が自由にできる	7
夜間開講、土日開講、遠隔指導などの各種手段を使って仕事と両立できる	5
研究環境が充実している（施設、研究スペースなど）	8
長期履修制度	2
就職支援制度（わかりやすいキャリアパス）	5

阻害要因として、「経済学負担」、「自由に研究ができない（場合）」、「研究環境」、「自分のやりたい研究が自由にできる」が挙げられる。また、「就職支援制度」も高数値を示している。また、就職後の展望も踏まえたためか「長期履修制度」、「夜間開講、土日開講など」の回答に比較的高い数値が確認できる。

取得を希望する学位を尋ねた結果を表 21 に示す。さらに、所属別内訳を表 22 に示す。

表 21

(人)

項目	度数
まだわからない	3
博士(学術)	2
博士(危機管理学)	1
博士(工学)	7
合計	13

表 22

(人)

項目	教・人	法学	経済	工学
博士(学術)			1	1
博士(危機管理学)				1
博士(工学)				7

「学術」を希望する学生が2名見られる。内訳は、経済学系領域1人、工学系領域1人、である。「工学」は7人（工学系領域7人）、「危機管理学」にも1人（工学系領域）確認できる。

本博士課程（後期）に期待する事柄についての回答結果を表 23 に示す。また、自由記載欄の結果を表 24 に示す。

表 23

(人)

事項	度数
異なる分野の知識を効果的に組み合わせる結合力	11
研究成果の実装力	7
高い倫理観	4
専門分野に関する高度な知識・技能	11
グローバルマインド	4
分野を横断して複合的、複雑な社会課題に対する前例のない解決策を導く企画能力・研究推進能力	10
高い倫理観	4

## 自由記載内容

○教育、心理学、工学まではいかないが教育プログラミングなどを学びたい

○創発科学研究科修士課程でも博士課程と同様な目的を掲げられていたが、1年の学習を通して、特に各種目標に対する取り組みを強い実感としては得られていない(他の学科の科目を受講できるのは良かったです)ため、目標自体に魅力は感じるが、実際的な内容に反映されるか疑問に感じる。

○地方国立大学では飛びぬけた研究をするというよりも若い人達の育成に力を注いだ方がいいのではないかと最近思います。善い研究者を育てられるような博士課程になってほしいです。

○無駄な授業をやめることが欲しい。もうどう各研究科と適当な授業を開設して方がいいと思います

## [分析]

本構想の教育目標/養成する人材像、学位プログラム、授業などの構想に対して、受験対象者(この場合は創発科学研究科1年次生)の一定数は魅力を感じていることが確認できる。また、内訳からは、教育・人文、経済学、工学の各領域の学生に(偏りは見られるが)確認できる。

それら受験対象者の関心は、「分野横断・学際的な教育研究指導體制」について高い関心が寄せられている。さらに、「就職、転職、現在の職務の上」、さらには「今後」にあつての「博士」という学位の社会的意義を受験対象者の複数が見出す傾向が確認できる。

予備調査時から把握に務めた阻害養要因として、「経済学負担」、「自由に研究ができない(場合)」、「研究環境の充実」が高い頻度で確認できる。さらに、「夜間開講、土日開講」といった柔軟な修学方法が続いている。また、「長期履修制度」や、「就職支援制度」の拡充も指摘されている。

進学意向者数については、下記のとおり抽出を行った。抽出の条件は下記のとおりとする。

〈条件〉

「教育目標/養成する人材像」など本博士課程（後期）の理念及びいずれかの「学位プログラム」に魅力を感じ、かつ、「大いに関心」を持ち、「進学意向を示し」、かつ、「取得したい学位」が明確な者

〈結果〉

該当者数：2名

内訳	創発科学研究科（工学系）	1名
	創発科学研究科（経済学系）	1名

上記の2名の者は、本課程に魅力を感じ、かつ、高い関心を示し、具体的な進学を検討していると強く推測される。

つづいて、予測値の条件に一定程度合致しながら、進学意向を「検討したい」と回答した者及び「社会となってから、経験を積んで」と回答した者を下記に示す。

〈結果〉

該当者数：1名

内訳	創発科学研究科（工学系）	1名
----	--------------	----

これらの学生が指摘する進学の阻害要因は、「経済的負担の軽減」、「自由な研究」である。よって、授業料免除等の施策の充実により進学の可能性が高いと推測される。

以上のことから創発科学研究科（修士課程）から本博士課程（後期）への進学者は、3名程度と予想される。



(参考) アンケート項目 (学生対象)

## 前文

香川大学では2024年(令和6年)4月に香川大学大学院創発科学研究科に博士課程の設置を計画しています。

このアンケートは、在籍する学生の皆さんへ新しい博士課程の設置計画をお知らせするとともに、設置計画に対する考えや意見、要望をお聞きしたいと考えておりますので、ご協力をお願いします。

※このアンケートやご覧いただく資料に記載されているカリキュラムや研究指導體制に関する全ての事項は予定であり、内容が変更になる場合があります。

※このアンケートにより得られた情報は統計資料としてのみ使用し、個人を特定することは一切ありません。

☆アンケートに回答する前に、創発科学研究科創発科学専攻博士課程設置に関する説明資料をご一読ください。

はじめにあなた自身(学生本人)について伺います。

Q1 あなたが所属する専攻等について教えてください(該当するもの1つにチェック)

創発科学研究科創発科学専攻

※該当する入試区分にチェックをしてください。

- (1) 教育・人文系領域
- (2) 法学系領域
- (3) 経済学系領域
- (4) 工学系領域
- (5) 工学系領域
- (6) 工学系領域
- (7) 工学系領域
- (8) 工学系領域
- (9) 工学系領域
- (10) 工学系領域

地域マネジメント研究科

- (11) 地域マネジメント専攻

農学研究科

- (12) 応用生物・希少糖科学専攻

Q2 創発科学研究科博士課程の教育・研究内容について関心を持ちましたか?

該当するもの1つにチェックしてください。

- (1)大いに関心を持った
- (2)関心を持った
- (3)やや関心を持った
- (4)関心はない

Q3. 創発科学研究科博士課程では、以下の事項を教育目標としています。これらの教育目標にどの程度魅力を感じますか？

それぞれ該当するもの1つにチェックしてください。

○軸となる専門分野におけるピアレビューに耐え得る知の深化を促し、さらに既存の専門分野の枠を越えた「総合知」に発展させて社会実装することを目指す。つまり、修士課程で創発した知の端緒を「総合知」として学外に論文発表できるレベルに深化させるとともに、社会課題の解決策として実装することに相当する。

- とても魅力を感じる
- ある程度魅力を感じる
- あまり魅力を感じない
- まったく魅力を感じない

○要素技術どうしを融合（クロス・ディシプレナリー）させたり、要素技術だけでなく実装されるシステム階層の分野まで発展させることを促したりするなど、総合知へと結実するように指導する。

- とても魅力を感じる
- ある程度魅力を感じる
- あまり魅力を感じない
- まったく魅力を感じない

○本学の強みである地域デザイン、観光地域戦略、多文化共生、政策法務を基盤としながら複数分野の知見を活用し、グローバルな視野のもとに総合知を形成することで、多様性の包摂と持続可能な地域社会の実現と現代社会における諸課題を総合知により効果的に解決に導ける人材の養成

- とても魅力を感じる
- ある程度魅力を感じる
- あまり魅力を感じない
- まったく魅力を感じない

○工学・自然科学に対する深い知識と理解を有し、当該の工学・自然科学の分野における知を深化させるとともに、人文社会科学を含めて分野を複合的に跨いで、課題解決として社会実装と豊かな環境の保全を総合知によって実現する人材、あるいは、人文・社会系に対する深い知識と理解を有し、当該の人文・社会系の分野における知を深化させるとともに、人文・社会系の他分野、工学・自然科学を含めて分野を複合的に跨いで、課題解決として社会実装と豊かな環境の保全を総合知によって実現する人材の養成

- とても魅力を感じる
- ある程度魅力を感じる
- あまり魅力を感じない
- まったく魅力を感じない

○研究対象とする危機に対する深い問題意識と工学・自然科学の理解を基盤としながら、危機管理学の分野融合性を活用し、安全でレジリエントな都市・居住環境を構築するとともに、社会の課題解決を旨として効果的な総合知を獲得する能力を有しており、より汎用的な解決へ応用展開できる柔軟な思考・コミュニケーション能力を有する等、様々な危機に対応できる人材の養成

- とても魅力を感じる
- ある程度魅力を感じる
- あまり魅力を感じない
- まったく魅力を感じない

Q4 Q2で(1)～(3)と回答した理由をお答えください。

該当するものすべてにチェックをしてください

- (1) 分野横断・学際的な教育研究指導体制に魅力を感じるから
- (2) ELSI&グローバルマインドなど授業科目に興味があるから
- (3) 学位プログラムに魅力を感じるから
- (4) 教育内容が現在・将来の自分の職務に役立つそうだから
- (5) 教育内容が将来の就職・転職に有利そうだから
- (6) 学位としての博士が今後必要と考えるから。
- (7) 教育学、法学、経済学などの分野の研究を行いたいから。
- (8) 社会人特別プログラムなど社会人に配慮した教育課程が整備されているから

Q5 創発科学研究科博士課程が開設された場合、進学を希望しますか？

該当するもの1つにチェックしてください。

- (1) 修士課程修了後、進学して取得したい
- (2) 進学を検討したい
- (3) 社会人となってから、ある程度経験を積んだ上で進学して取得したい
- (4) 社会人となってから、機会があれば進学を検討したい
- (5) まだわからない
- (6) 進学を希望しない。

※ (6) を選択した場合は、アンケート終了です。

Q6 Q5 で進学を進学を検討したい、機会があれば検討したいと回答された方に伺います。どのような条件が整えば、創発科学研究科博士課程に進学したいと考えますか。

複数回答可

- (1) 経済的負担が軽減されている（授業料免除、奨学金制度の充実）
- (2) 自分のやりたい研究が自由にできる
- (3) 研究環境が充実している（施設、研究スペースなど）
- (4) 夜間開講、土日開講、遠隔指導などの各種手段を使って仕事と両立できる
- (5) 長期履修制度
- (6) 就職支援制度（わかりやすいキャリアパス）
- (7) その他

Q7 創発科学研究科博士課程に進学する場合、どの学位の取得を希望しますか？

- (1) 博士（工学）
- (2) 博士（危機管理学）
- (3) 博士（学術）
- (4) まだわからない

Q8 あなたは、大学院創発科学研究科博士課程での学修でえられる能力等について、何を期待しますか

複数回答可

- (1) 専門分野に関する高度な知識・技能
- (2) 異なる分野の知識を効果的に組みわせる結合力
- (3) 分野を横断して複合的、複雑な社会課題に対する前例のない解決策を導く企画能力・研究推進能力
- (4) 高い倫理観

- (5) 研究成果の実装力
- (6) グローバルマインド

Q9 設置計画を含めて、本学の博士課程に対する意見、要望をお聞かせください  
自由記述

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

## 大学院学生本学研究科(修士課程/専門職大学院)学生対象アンケート

【他研究科学生（1・2年次生）対象調査】

実施対象：受験対象者たる本学大学院学生

実施日：令和5年1月～2月

目的：創発科学研究科への進学意思の確認

本構想に対する魅力度の調査

博士課程（後期）への進学阻害要因の把握

対象：本学他研究科に所属する学生で1年次、2年次のもの

内訳）※在籍者全員を調査対象とする

区分	人数
教育学研究科（専門職学位課程）	38名
法学研究科（修士課程）	12名
経済学研究科（修士課程）	8名
医学系研究科（博士前期課程/修士課程）	56名
工学研究科（博士前期課程）	99名
農学研究科（修士課程）	116名
地域マネジメント研究科（専門職学位課程）	76名

※法学研究科、経済学研究科及び工学研究科は、創発科学研究科（修士課程）設置に伴い学生募集を停止したため、2年次生のみを対象とする。

方法：WEB アンケート(Forms)

用紙：別紙のとおり

説明資料：別紙のとおり

結果：回答者数 25 人 (N=25)

## 結果1 回答者数

本調査の回答者数を表1に示す。合わせて回答者の属性を示す。

表1 (人)

所属(研究科)	度数
教育学研究科(専門職大学院:教職)	3
工学研究科	4
地域マネジメント研究科(専門職大学院:経営)	17
農学研究科	1
合計	25

N=25

最も多く回答したのは、地域マネジメント研究科(専門職大学院・経営)の学生である。次いで工学研究科博士前期課程(2年次生のみ)、教育学研究科(専門職大学院:教職)、農学研究科の順となっている。

## 結果2 魅力度調査結果

以下で、本博士課程(後期)の養成する人材像、教育目標、各学位プログラムの魅力度を調査した結果を示す。

本構想で策定した教育目標/養成する人材像の魅力度の結果を表3に示す。

Q3. 創発科学研究科博士課程では、以下の事項を教育目標としています。これらの教育目標にどの程度魅力を感じますか？

軸となる専門分野におけるピアレビューに耐え得る知の深化を促し、さらに既存の専門分野の枠を越えた「総合知」に発展させて社会実装することを目指す。つまり、修士課程で創発した知の端緒を「総合知」として学外に論文発表できるレベルに深化させるとともに、社会課題の解決策として実装することに相当する。

表2 (人)

項目	度数
とても魅力を感じる	11
ある程度魅力を感じる	11
あまり魅力を感じない	3
まったく魅力を感じない	0
合計	25

「とても」が15、「ある程度」が24である。魅力を感じない回答は比較的少数となっている。魅力があると答えた回答者の内訳を下表に示す。

表3 (人)

	教育	工学	地マネ	農学	合計
とても魅力を感じる	2	1	8		11
ある程度魅力を感じる	1	3	6	1	11

特に、地域マネジメント研究科の学生が他の所属に比較して高く人材像を評価している。

本構想の核のひとつとする「総合知」に基づく指導方針についての結果を表4に示す。合わせて「魅力を感じる」と回答した者の所属と頻度を示す。

**要素技術どうしを融合（クロス・ディシプレナリー）させたり、要素技術だけでなく実装されるシステム階層の分野まで発展させることを促したりするなど、総合知へと結実するように指導する。**

表4 (人)

項目	度数
とても魅力を感じる	10
ある程度魅力を感じる	11
あまり魅力を感じない	4
まったく魅力を感じない	0
合計	25

表6 (人)

	教育	工学	地マネ	農学	合計
とても魅力を感じる	2	2	6		10
ある程度魅力を感じる	1	1	8	1	11

表6からは、養成する人材像と同様の傾向がみられる。

下記に、本構想で策定した、「社会創発プログラム」、「先端工学プログラム」、「レジリエント社会共創プログラム」の魅力度の結果を示す。

### 「社会創発プログラム」

本学の強みである地域デザイン、観光地域戦略、多文化共生、政策法務を基盤としながら複数分野の知見を活用し、グローバルな視野のもとに総合知を形成することで、多様性の包摂と持続可能な地域社会の実現と現代社会における諸課題を総合知により効果的に解決に導ける人材の養成

表7 (人)



項目	度数
とても魅力を感じる	13
ある程度魅力を感じる	9
あまり魅力を感じない	3
まったく魅力を感じない	
合計	25

表8

(人)

	教育	工学	地マネ	農学	合計
とても魅力を感じる	3	1	9	0	13
ある程度魅力を感じる	0	3	6		9

地域マネジメント研究科の学生が他の所属と比較して高く評価している。また、教育学研究科の学生も高く評価している。

#### 「先端工学デザインプログラム」

工学・自然科学に対する深い知識と理解を有し、当該の工学・自然科学の分野における知を深化させるとともに、人文社会科学を含めて分野を複合的に跨いで、課題解決として社会実装と豊かな環境の保全を総合知によって実現する人材、或いは、工学・自然科学に対する深い知識と理解を有し、当該の工学・自然科学の分野における知を進化させるとともに、人文社会科学を含めて分野を複合的に跨いで、課題解決として社会実践を総合知によって実現する人材

表9

(人)

項目	度数
とても魅力を感じる	10
ある程度魅力を感じる	11
あまり魅力を感じない	3
まったく魅力を感じない	1
合計	25

表 10

(人)

	教育	工学	地マネ	農学	合計
とても魅力を感じる	2	1	7	0	10
ある程度魅力を感じる	1	1	8	1	11

特に評価しているのは、地域マネジメント研究科の学生である教育学研究科の学生も高

く評価している。

「レジリエント社会共創プログラム」

研究対象とする危機に対する深い問題意識と工学・自然科学の理解を基盤としながら、危機管理学の分野融合性を活用し、安全でレジリエントな都市・居住環境を構築するとともに、社会の課題解決を旨として効果的な総合知を獲得する能力を有しており、より汎用的な解決へ応用展開できる柔軟な思考・コミュニケーション能力を有する等、様々な危機に対応できる人材の養成

表 11 (人)

項目	度数
とても魅力を感じる	10
ある程度魅力を感じる	10
あまり魅力を感じない	5
まったく魅力を感じない	0
合計	25

表 12 (人)

	教育	工学	地マネ	農学	合計
とても魅力を感じる	2	2	6	0	10
ある程度魅力を感じる	1	1	8		10

地域マネジメント研究科の学生が比較的高く評価を行っている。

教育目標/養成する人材像、各学位プログラムを総括し、本構想に対する関心度を尋ねた結果を表 13 に示す。合わせて、「関心を持った」と回答した者の内訳を表 14 に示す。

表 13 (人)

項目	度数
大いに関心を持った	10
関心を持った	6
やや関心を持った	3
関心はない	6
合計	25

表 14 (人)

	教育	工学	地マネ	農学	合計
大いに関心をもった	2	1	7	0	10

関心を持った	0	1	5	0	6
--------	---	---	---	---	---

地域マネジメント研究科の学生が最も高い関心を示した。教育学研究科の学生の関心も確認できる。

本構想に「関心を持った」者が特に何に関心をもったかを尋ねた結果(関心の対象)を表15に示す。本項目は、複数回答可としている。

表 15 (人)

項目	度数
ELSI&グローバルマインドなど授業科目に興味があるから	2
分野横断・学際的な教育研究指導体制に魅力を感じるから	11
学位プログラムに魅力を感じるから	6
学位としての博士が今後必要と考えるから	5
教育学、法学、経済学などの分野の研究を行いたいから	4
教育内容が将来の就職・転職に有利そうだから	0
社会人特別プログラムなど社会人に配慮した教育課程が整備されているから	7
教育内容が現在・将来の自分の職務に役立ちそうだから	3

最も高い度数を示したのは「分野横断・学際的な教育研究指導体制」である。続いて「社会人特別プログラムなど社会人に配慮した教育課程が整備されているから」となっている。続いて、「学位プログラムに魅力を感じる」、「学位としての博士が今後必要と考える」、「教育、法学、経済学などの分野の研究を行いたいから」となっている。

先に本構想に「大いに関心をもった」と回答した10人の関心の対象を表16に示す。

表 16 (人)

項目	度数
分野横断・学際的な教育研究指導体制に魅力を感じるから	6
教育学、法学、経済学などの分野の研究を行いたいから	3
学位プログラムに魅力を感じるから	3
学位としての博士が今後必要と考えるから	2
社会人特別プログラムなど社会人に配慮した教育課程が整備されているから	5
ELSI&グローバルマインドなど授業科目に興味があるから	2
教育内容が将来の就職・転職に有利そうだから	0
教育内容が現在・将来の自分の職務に役立ちそうだから	3

「分野横断・学際的な教育研究指導体制」への関心が最も高い。続いて、社会人特別プログラムとなっている。教育内容の職業的意義、博士の社会的意義が続いている。

さらに、所属別の回答を表 17 に示す。

表 17 (人)

項目	教育	工学	地マネ
分野横断・学際的な教育研究指導体制に魅力を感じるから	2	1	5
教育学、法学、経済学などの分野の研究を行いたいから			3
学位プログラムに魅力を感じるから	1		2
学位としての博士が今後必要と考えるから			3
社会人特別プログラムなど社会人に配慮した教育課程の整備	1		4
ELSI & グローバルマインドなど授業科目に興味があるから	1		1
教育内容が将来の就職・転職に有利そうだから			
教育内容が現在・将来の自分の職務に役立ちそうだから	1		2

地域マネジメント研究科の学生は、経営学を主たる専攻分野するためか、「分野横断・学際的な教育研究指導体制」に続けて「教育学、法学、経済学などの分野」の博士課程（後期）での研究に関心を示している。また、社会人特別プログラムにも関心を示している。

博士課程の教育の職業上・職務上の意義については社会人学生が中心の教育学研究科、地域マネジメント研究科双方の学生が関心を示している。

本研究科への進学意向結果を表 18 に示す。

### 結果 3. 進学意向結果

Q 創発科学研究科博士課程が開設された場合、進学を希望しますか？該当するもの 1 つにチェックしてください。

表 18 (人)

項目	度数
修士課程修了後、進学して取得したい	3
進学を検討したい	5
社会人となってから、ある程度経験を積んだ上で進学して取得したい	1
社会人となってから、機会があれば進学を検討したい	2
まだわからない	8
進学を希望しない	6
合計	25

本博士課程（後期）への進学意向は 3 人が確認できる「進学を検討したい」とするものが

5名確認できる。

先に本構想に「大いに関心がある」と応えた者の進学意向状況を表19に示す。

表19 (人)

項目	教育	工学	地マネ	農学
修士課程修了後、進学して取得したい	1		2	
進学を検討したい			5	
社会人となってから、ある程度経験を積んだ上で進学して取得したい			1	
社会人となってから、機会があれば進学を検討したい		1		
まだわからない	1	1	6	
進学を希望しない	1	1	3	1

「大いに関心がある」と開講した者のうち、域マネジメント研究科2名、教育学研究科1名が、進学意向を示している。また、地域マネジメント研究科の2名は、「今後検討したい」と回答している。

博士課程（後期）進学にあたっての阻害要因の推定を目的として、受験対象者にどのような条件が整えば進学するかを尋ねた。結果を表20に示す。

表20 (人)

項目	度数
経済的負担が軽減されている（授業料免除、奨学金制度の充実）	11
自分のやりたい研究が自由にできる	11
夜間開講、土日開講、遠隔指導などの各種手段を使って仕事と両立できる	16
研究環境が充実している（施設、研究スペースなど）	7
長期履修制度	8
能動的に卒業できる見込みがあるか	1

阻害要因として、「夜間・土日・遠隔などと仕事との両立」、「経済学負担」、「自由に研究ができない（場合）」が高い頻度で確認できる。さらに、「長期履修」、「研究環境」の良し悪しが続いている。

取得を希望する学位を尋ねた結果を表21に示す。さらに、所属別内訳を表22に示す。

表21 (人)

項目	度数
まだわからない	9

博士(学術)	5
博士(危機管理学)	1
博士(工学)	0
合計	15

表 22 (人)

項目	教 育	工 学	地 マ ネ
博士(学術)			5
博士(危機管理学)	1		
博士(工学)		2	2

「学術」を希望する学生が5人見られる。内訳は、地域マネジメント研究科学生5人である。「工学」は工学研究科の学生が、「危機管理学」は、教育学研究科の学生が希望している。

本博士課程(後期)に期待する事柄についての回答結果を表23に示す。また、自由記載欄の結果を表24に示す。

表 23 (人)

事項	度数
異なる分野の知識を効果的に組み合わせる結合力	10
研究成果の実装力	8
専門分野に関する高度な知識・技能	9
グローバルマインド	4
分野を横断して複合的、複雑な社会課題に対する前例のない解決策を導く企画能力・研究推進能力	9
研究成果の実装力	8
高い倫理観	1

自由記載内容

- |   |
|---|
| ○創発科学研究科については、本アンケート問1の説明文の意味がいずれも伝わりにくく、貴大学が何をしたいのかがまったく伝わらない。 |
| ○博士課程は修士課程より飛躍的に難しくなる印象がある。社会人と両立できるのか不安が有ります。                  |

## [分析]

本構想の教育目標/養成する人材像、学位プログラム、授業などの構想に対して魅力を感じる本学他研究科の学生が確認できる。

本学においては、博士人材養成課程の教育研究分野となっていない「教育学、法学、経済学」への関心も確認できる。「分野横断・学際的な教育研究指導体制」、「社会人特別プログラム」についても高い関心が寄せられている。また、就職、転職、現在の職務の上、さらには今後あつての「博士」という学位の社会的意義を受験対象者の複数が既に見出す傾向が確認できる。

本調査を通じて、地域マネジメント研究科（専門職学位課程）や教育学研究科（専門職学位課程）の有職社会人学生も本学内での進学経路を求めている/いたことも予備調査（他研究科学生対象調査）に引き続き明確になった。

有職社会人学生の学内進学は予備調査（他研究科学生対象調査）段階でも強く予想された。よって、本構想に「社会人プログラム」を設定した。当該プログラムに対しても肯定的評価が確認される。

予備調査（の補助調査）時から把握に務めた進学阻害要因として、「経済学負担」、「自由に研究ができない（場合）」、「仕事との両立」、「研究環境」の良し悪しが高い頻度で確認できる。同時に「長期履修制度」が確認できる。そこで、本構想には、改めて、「仕事との両立」に資する土日開講、長期履修制度を整備し周知することとした。

進学意向者数については、下記のとおり抽出を行った。抽出の条件は下記のとおりとする。

### 〈条件〉

「教育目標/養成する人材像」など本博士課程（後期）の理念及びいずれかの「学位プログラム」に魅力を感じ、かつ、「大いに関心」を持ち、「進学意向を示し」、かつ、「取得したい学位」が明確な者

### 〈結果〉

該当者数：3名

内訳）	教育学研究科	1名
	地域マネジメント研究科	2名

上記の5名の者は、本課程に魅力を感じ、かつ、高い関心を示し、具体的な進学を検討していると強く推測される。

つづいて、予測値の条件に一定度合致しながら、進学意向を「検討したい」と回答した者及び「社会となつてから、経験を積んで」と回答した者を下記に示す。

〈結果〉

該当者数：2名

内訳) 地域マネジメント研究科 2名

これらの学生が指摘する進学の阻害要因は、「夜間開講、土日開講、遠隔指導などの各種手段を使って仕事と両立できる」である。よって、社会人学生に対する、土日・夜間開講、長期履修制度の適用を強調することを通じて、進学意向が生じる可能性が高いと推測する。

本調査は、1年次、2年次を混合して調査を行ったため、年次進行により博士後期課程に入学する学生の推定は困難であるが、予備調査(他研究科学生対象調査)と踏まえるならば、3名程度が入学すると期待できる。

さらに、回答からは、「社会人」としての入学を希望するものも確認された。これらの希望者のために、上記の環境整備を通じて、修了後の社会人入学者として2名程度が推測される。



(参考) アンケート項目 (学生対象)

## 前文

香川大学では2024年(令和6年)4月に香川大学大学院創発科学研究科に博士課程の設置を計画しています。

このアンケートは、在籍する学生の皆さんへ新しい博士課程の設置計画をお知らせするとともに、設置計画に対する考えや意見、要望をお聞きしたいと考えておりますので、ご協力をお願いします。

※このアンケートやご覧いただく資料に記載されているカリキュラムや研究指導體制に関する全ての事項は予定であり、内容が変更になる場合があります。

※このアンケートにより得られた情報は統計資料としてのみ使用し、個人を特定することは一切ありません。

☆アンケートに回答する前に、創発科学研究科創発科学専攻博士課程設置に関する説明資料をご一読ください。

はじめにあなた自身(学生本人)について伺います。

Q1 あなたが所属する専攻等について教えてください(該当するもの1つにチェック)

創発科学研究科創発科学専攻

※該当する入試区分にチェックをしてください。

- (1) 教育・人文系領域
- (2) 法学系領域
- (3) 経済学系領域
- (4) 工学系領域
- (5) 工学系領域
- (6) 工学系領域
- (7) 工学系領域
- (8) 工学系領域
- (9) 工学系領域
- (10) 工学系領域

地域マネジメント研究科

- (11) 地域マネジメント専攻

農学研究科

- (12) 応用生物・希少糖科学専攻

Q2 創発科学研究科博士課程の教育・研究内容について関心を持ちましたか?

該当するもの1つにチェックしてください。

- (1)大いに関心を持った
- (2)関心を持った
- (3)やや関心を持った
- (4)関心はない

Q3. 創発科学研究科博士課程では、以下の事項を教育目標としています。これらの教育目標にどの程度魅力を感じますか？

それぞれ該当するもの1つにチェックしてください。

○軸となる専門分野におけるピアレビューに耐え得る知の深化を促し、さらに既存の専門分野の枠を越えた「総合知」に発展させて社会実装することを目指す。つまり、修士課程で創発した知の端緒を「総合知」として学外に論文発表できるレベルに深化させるとともに、社会課題の解決策として実装することに相当する。

- とても魅力を感じる
- ある程度魅力を感じる
- あまり魅力を感じない
- まったく魅力を感じない

○要素技術どうしを融合（クロス・ディシプリナリー）させたり、要素技術だけでなく実装されるシステム階層の分野まで発展させることを促したりするなど、総合知へと結実するように指導する。

- とても魅力を感じる
- ある程度魅力を感じる
- あまり魅力を感じない
- まったく魅力を感じない

○本学の強みである地域デザイン、観光地域戦略、多文化共生、政策法務を基盤としながら複数分野の知見を活用し、グローバルな視野のもとに総合知を形成することで、多様性の包摂と持続可能な地域社会の実現と現代社会における諸課題を総合知により効果的に解決に導ける人材の養成

- とても魅力を感じる
- ある程度魅力を感じる
- あまり魅力を感じない
- まったく魅力を感じない

○工学・自然科学に対する深い知識と理解を有し、当該の工学・自然科学の分野における知を深化させるとともに、人文社会科学を含めて分野を複合的に跨いで、課題解決として社会実装と豊かな環境の保全を総合知によって実現する人材、あるいは、人文・社会系に対する深い知識と理解を有し、当該の人文・社会系の分野における知を深化させるとともに、人文・社会系の他分野、工学・自然科学を含めて分野を複合的に跨いで、課題解決として社会実装と豊かな環境の保全を総合知によって実現する人材の養成

- とても魅力を感じる
- ある程度魅力を感じる
- あまり魅力を感じない
- まったく魅力を感じない

○研究対象とする危機に対する深い問題意識と工学・自然科学の理解を基盤としながら、危機管理学の分野融合性を活用し、安全でレジリエントな都市・居住環境を構築するとともに、社会の課題解決を旨として効果的な総合知を獲得する能力を有しており、より汎用的な解決へ応用展開できる柔軟な思考・コミュニケーション能力を有する等、様々な危機に対応できる人材の養成

- とても魅力を感じる
- ある程度魅力を感じる
- あまり魅力を感じない
- まったく魅力を感じない

Q4 Q2で(1)～(3)と回答した理由をお答えください。

該当するものすべてにチェックをしてください

- (1) 分野横断・学際的な教育研究指導体制に魅力を感じるから
- (2) ELSI&グローバルマインドなど授業科目に興味があるから
- (3) 学位プログラムに魅力を感じるから
- (4) 教育内容が現在・将来の自分の職務に役立ちそうだから
- (5) 教育内容が将来の就職・転職に有利そうだから
- (6) 学位としての博士が今後必要と考えるから。
- (7) 教育学、法学、経済学などの分野の研究を行いたいから。
- (8) 社会人特別プログラムなど社会人に配慮した教育課程が整備されているから

Q5 創発科学研究科博士課程が開設された場合、進学を希望しますか？

該当するもの1つにチェックしてください。

- (1) 修士課程修了後、進学して取得したい
- (2) 進学を検討したい
- (3) 社会人となってから、ある程度経験を積んだ上で進学して取得したい
- (4) 社会人となってから、機会があれば進学を検討したい
- (5) まだわからない
- (6) 進学を希望しない。

※(6)を選択した場合は、アンケート終了です。

Q6 Q5で進学を進学を検討したい、機会があれば検討したいと回答された方に伺います。どのような条件が整えば、創発科学研究科博士課程に進学したいと考えますか。

複数回答可

- (1) 経済的負担が軽減されている（授業料免除、奨学金制度の充実）
- (2) 自分のやりたい研究が自由にできる
- (3) 研究環境が充実している（施設、研究スペースなど）
- (4) 夜間開講、土日開講、遠隔指導などの各種手段を使って仕事と両立できる
- (5) 長期履修制度
- (6) 就職支援制度（わかりやすいキャリアパス）
- (7) その他

Q7 創発科学研究科博士課程に進学する場合、どの学位の取得を希望しますか？

- (1) 博士（工学）
- (2) 博士（危機管理学）
- (3) 博士（学術）
- (4) まだわからない

Q8 あなたは、大学院創発科学研究科博士課程での学修でえられる能力等について、何を期待しますか

複数回答可

- (1) 専門分野に関する高度な知識・技能
- (2) 異なる分野の知識を効果的に組みわせる結合力
- (3) 分野を横断して複合的、複雑な社会課題に対する前例のない解決策を導く企画能力・研究推進能力
- (4) 高い倫理観

- (5) 研究成果の実装力
- (6) グローバルマインド

Q9 設置計画を含めて、本学の博士課程に対する意見、要望をお聞かせください  
自由記述

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

## 近隣大学大学院の状況調査

## 調査方法等

各項目の諸元は、「設置に係る設置計画履行状況調査報告書」から引用することを原則とする。報告書が古い場合は、当該大学の公開情報（HP掲載のもの）による。

研究科等名称	学位または専攻の分野	学位(名称)
徳島大学大学院 創成科学研究科 創成科学専攻	文学関係 社会学・社会福祉学関係 工学関係 農学関係 ※設置計画履行状況報告書による	博士(学術) 博士(工学) 博士(農学) ※設置計画履行状況報告書による
広島大学大学院 人間社会科学研究科 人文社会科学専攻	文学関係 法学関係 社会学・社会福祉学関係」経済学関係 ※設置計画履行状況報告書による	博士(文学) 博士(心理学) 博士(法学) 博士(経済学) 博士(経営学) 博士(マネジメント) 博士(国際協力学) ※設置計画履行状況報告書による
広島大学大学院 先進理工系科学研究科 先進理工系科学専攻	理学関係 工学関係 ※設置計画履行状況報告書による	博士(理学) 博士(工学) 博士(情報科学) 博士(国際協力学) 博士(学術) ※設置計画履行状況報告書による
岡山大学大学院 社会文化科学研究科 社会文化学専攻	文学関係 法学関係 経済学関係 ※大学HPによる	博士(文学) 博士(法学) 博士(経済学) 博士(経営学) 博士(文化科学) 博士(学術) ※大学HPによる
岡山大学大学院 自然科学研究科	工学関係	博士(工学) 博士(学術)

応用科学専攻 産業創生工学専攻	※大学HPによる	
愛媛大学大学院 理工学研究科 生産環境工学専攻 物質生命工学専攻 電子情報工学専攻	工学関係	博士(工学)  ※大学HPによる
高知大学大学院 総合人間自然科学研究科 応用自然科学専攻 黒潮圏総合科学専攻	理学関係、工学関係  総合科学 ※大学HPによる	博士(理学) 博士(理工学)  博士(学術)  ※大学HPによる

#### 入学定員

専攻名等	入学定員	事項	人数
徳島)創成科学専攻	47	志願者	20
		受験者	20
		合格者	19
		入学者	19(0.40)
広島)人文社会科学専攻	85	志願者	74
		受験者	73
		合格者	67
		入学者	66(0.77)
広島)先進理工系科学専攻	128	志願者	114
		受験者	114
		合格者	112
		入学者	105 (0.82)
岡山)社会文化学専攻	12	志願者	9
		受験者	8
		合格者	7
		入学者	7(0.58)
岡山)自然科学研究科	50	志願者	35
		受験者	35
		合格者	35

		入学者	34(0.68)
愛媛) 理工学研究科	23	志願者	25
		受験者	25
		合格者	25
		入学者	24(1.04)
高知) 応用自然科学専攻	6	志願者	7
		受験者	7
		合格者	7
		入学者	7(1.16)
高知) 黒潮圏総合科学専攻	6	志願者	1
		受験者	1
		合格者	1
		入学者	1(0.16)

採取した数値の該当年度

徳島) 創成～ R4

広島) 人文～ R2

広島) 先進～ R2

岡山) 社会～ R4

岡山) 自然～ R4 ※研究科全体の数値を採用した。

愛媛) 理工～ R4 ※研究科全体の数値を採用した (R3.9 入学者も含めた)

高知) 応用～ R4

高知) 黒潮～ R4



## 修了者数及び修了後進路調査

修了年度	一般	有職社会人	外国人留学生	合計
H29	1	3	1	5
H30	1	2	5	8
R1	1	0	2	3
R2	4	7	4	15
R3	2	3	7	12

## 一般学生

修了年度	修了後進路
H29	国立大学研究員
H30	光学関連メーカー
R1	建設会社
R2	ポスドク、国立研究機関、産業用機器メーカー、化学メーカー
R3	高等専門学校教員、大学研究員

## 有職社会人

修了年度	修了後進路
H29	情報通信、公務、自動車メーカー
H30	建設コンサル、電機メーカー
R1	－
R2	検査・評価機関、地盤・土地調査、総合建設コンサルタント（2名）、起業、環境・建設コンサルタント、研究機関
R3	研究機関（民間）、検査・測定装置等メーカー、高等専門学校教員

## 外国人留学生

修了年度	修了後進路
H29	大学講師（帰国後）
H30	情報通信、航空測量、国立大学研究員、（ほか2名帰国）
R1	大学講師（帰国後）、大学講師
R2	研究機関（民間）、医療機関（帰国後）、（ほか2名帰国）
R3	ポスドク、国立大学研究員、大学教員、（ほか帰国4名）